

基盤研究（C）研究課題：20K00082

維新时期における東本願寺の破邪論とキリシタン——樋口龍温の未公開史料の分析と公開——

研究代表者 狭間芳樹（大谷大学）

## 明治期耶蘇教徒管理關係史料（I）





14  
246-5

自明治十年十二月至今十三年十月

庶務課庶務係事務簿

外務部

浦上郵異  
宗徒一併  
全

共  
第 冊  
函 付

庶務課庶務係事務簿 外教部

票號 件名

壹 異宗徒取調事件 付第十五天區石長、全郎元在堂宮原、彈右門

全道當廳出頭之連之件

貳 長崎西御免上業文、異宗徒地代金取扱之義、白卷、廳方連之件 二

三 換事補鶴田實異宗徒地代金事件、開合度、白當廳、差出方長崎上業、裁

判形照會之件

四 異宗徒地代金渡方、願書、差出方第十五天區石長、挂合之件 一

五 全事件取調、裁、願書、共、掣問條件、第十五天區石長、連之件 九

六 異宗徒關係帳簿、其冊第六課、付、回付之件 一

七 浦上那西尾三聖門外、舊地、代金、下渡方、催促願出之件 一

十七号 異宗徒西田光造より解家届出之件

十八号 異宗徒一件より大野藩より拂下、地所取調至急差出方面被拜郡役所、督促件

十九号 大野藩權太夫事より異宗徒地所處分差出、件上書件

二十号 浦上郡異宗徒より同世三郎外名総理代理委任届出之件

二十一号 同上事件より主任書記米倉正芳呼出之件

二十二号 浦上郡異宗徒総代より取前一切下戻、差出願、件

二十三号 同上事件より長崎県より土地受返方出張申控書、投書

二十四号 異宗徒地所下渡一件処分齊付調査処分方出納課、申遣件

二十五号 異宗徒地所下渡方面被拜郡役所、違、件

二十六号 借用異宗徒一件書類出納課、返却、件

二十七号 異宗徒地所処分差出、件上書件、係、書類、文書係、返却、件

八号 異宗徒地代金事件、付在田在屋并 副右長出府方御達件 四

九号 全書事件、付三重郡喜野席在月呼出方十五大區右長、達件 二

十号 全書事件、付飯島為等屬上申、件 五

十一号 飯島為等屬出張、付示談等本都合幸様注意、並裁十五大區右長、達件一

十二号 異宗徒地代金事件、付十五大區右長、協議兩區合併書可申出、自第一大區右

長、達、件

十三号 異宗徒地田福三山林引代金確受、並裁申出之件 二

十四号 浦上郡藩縣地無分別除藩縣人民賣買処分、係九書類、並出方十五大區右長、達

件

十五号 浦上郡元異宗徒地代金下渡事件、付關係者始末及說書、件 三

十六号 異宗徒一件書類所在各課、挂合、件 一

進 纂

二十八号 問合書之裏書第... 旨、仍り委詳、系方守山、六等、属外二属、照會、件

二十九号 木下七助外二名山林取調中、義野、邦大助、角、件

三



明治二十一年三月廿日受ノ月ノ継議  
主任 王爾夫 札 號  
十年三月廿日决ニ月六日行

委任物  
第一課

先之材料加納於物  
其因於十一月廿日  
全一併之先年  
有該全一併之先年  
有該全一併之先年  
之材料加納於物  
其因於十一月廿日  
全一併之先年  
有該全一併之先年  
有該全一併之先年  
之材料加納於物  
其因於十一月廿日  
全一併之先年  
有該全一併之先年  
有該全一併之先年

明治十年五月

委任物

年 月 日 月 日

明 治 年 月 日

主任

巡議

月

日

月

明

月

日

月

年

主任

巡議

月

日

月

年

主任

月

日

月

年

主任

捲念 國若名

一、本、地、之、民、生、事、業、甚、為、發、達、已、有、一、百、餘、年、之、史、而、其、間、雖、有、一、二、次、之、變、亂、然、其、後、復、興、而、日、趨、於、繁、榮、矣、

也、

古時好大屬率教中浦上村與來味

將地交分後回地付金云一并办商會

產之出款一致者以爲通請其後

而方自來分會種致此二存宗法以

三年月日不竟在諸一或願一古來

於歲一四年十月一正息東康所國被

良日辛船聖三年四月申旬歸名法

去一姓：爲四寧一高在江年四島在

之本板致然其成一而於一也一在

三

之

後藤炭

三十四年五月廿二日

三

去時年好大房幸教中浦上村畧宗法  
 持地才之分後日地代金云云有商會  
 元庵之出願可致者以寺法其後以  
 所方之白未夕合法難致於寺存宗法  
 二年月日不見法其願可致本際  
 和議二月年十月一日乙丑東京所用被命  
 良日辛卯聖三年四月中旬歸宗法其  
 吾一姓中為田安天高石記年四島其  
 光不板致其後其後其後其後其後其後

二

三

後藤炭礦

進  
纂

五中  
秋  
此  
其  
所  
請  
十  
上  
其  
也

丙  
辰  
十  
年  
十  
月  
廿  
七  
日

瓦  
上  
某

文



去  
時  
如  
此

為  
其  
所  
請  
中

明治十二年一月廿日受 二月十日廻議

十年十二月廿日決 二月十日行

主任 三原房

委任物

第一課

馬場多徳吉申、し浦上村元 署の事務  
に代へる一件 二件 三件 四件 五件  
六件 七件 八件 九件 十件 十一件 十二件  
十三件 十四件 十五件 十六件 十七件 十八件  
十九件 二十件 二十一件 二十二件 二十三件 二十四件  
二十五件 二十六件 二十七件 二十八件 二十九件 三十件  
三十一件 三十二件 三十三件 三十四件 三十五件 三十六件  
三十七件 三十八件 三十九件 四十件 四十一件 四十二件  
四十三件 四十四件 四十五件 四十六件 四十七件 四十八件  
四十九件 五十件 五十一件 五十二件 五十三件 五十四件  
五十五件 五十六件 五十七件 五十八件 五十九件 六十件  
六十一件 六十二件 六十三件 六十四件 六十五件 六十六件  
六十七件 六十八件 六十九件 七十件 七十一件 七十二件  
七十三件 七十四件 七十五件 七十六件 七十七件 七十八件  
七十九件 八十件 八十一件 八十二件 八十三件 八十四件  
八十五件 八十六件 八十七件 八十八件 八十九件 九十件  
九十一件 九十二件 九十三件 九十四件 九十五件 九十六件  
九十七件 九十八件 九十九件 一百件

長崎西山の位 尾上 三木文



其許俄先今年中  
 為多其  
 取之  
 常  
 與  
 地  
 一  
 變  
 分  
 及  
 口  
 地  
 代  
 八  
 色  
 之  
 一  
 俄  
 在  
 乃  
 般  
 出  
 向  
 人  
 之  
 反  
 心  
 有  
 一  
 名  
 十  
 朱  
 林  
 之  
 年  
 亦  
 十  
 年  
 為  
 所  
 之  
 政  
 多  
 保  
 一  
 之  
 中  
 出  
 也  
 之  
 也  
 三  
 月  
 廿  
 日  
 第  
 一  
 課

尾上榮木文取

受峰の毎下浦上村異の宗法地代半の儀  
 先取申渡者之形部重の情中述及迄通  
 控定之義回也時毎大属申取扱  
 藩籍地所分予之義取廻海之上已先  
 年四大村藩引有地代金川渡取成扱  
 度々取廢出納課正何部と申取扱儀  
 有之取申下有在任中ハ尋宗法自由一名在  
 歸村也之者之取之取下附不取扱申ハ生  
 行御預申退任時取義之旨取扱之義  
 ハ控當之負申取扱者之取扱申ハ生  
 儀モ最早数年ヲ経過也之取扱申ハ生  
 取扱不取扱申ハ生  
 三  
 五

一卜簿と異つ宗法系簿一併帳簿へその  
能裁簿毎双方受取しノ順序及び印  
書苦り毛編算原首之帳問  
及帳問合  
及帳問合  
及帳問合

明治十二年一月十五日

長崎上等裁判所

拾事補

鶴田 實

長崎一縣

課

中

一卜簿異の宗法系編一併帳簿へその  
能裁満為双方受取しノ順序及ヒ印  
書苦のヲモ編算者自之帳問  
同或成得ハ可致判然以段  
及答旨也

明治十一年一月十五日

長崎上等裁判所  
長崎

拾事補

鶴田實

長崎一縣

課

中

明治

明治、月、日受一月十日巡議  
十一年一月三日決、月、日行

主任三原三幸局

委任物 第一課

物

先般乃乃同大... 成念之儀... 引渡有... 預ヶ方... 伊予商... 三島山...

六 長崎系

鶴田の及

中  
年  
志  
拾  
事  
補  
鶴  
田  
の  
及  
義

鶴田

一

中書省自誌拾事補鶴田之儀  
 未日午時九時日回午後三時  
 送之四費病養出結祿也  
 趣委細致了兼致  
 回人事道般牙所方不勤  
 尚他日出為上者之儀可及  
 通也  
 知此股乃東回之也  
 也  
 明治十年十二月十二日  
 拾事局  
 也

又崎  
 崎  
 崎

中  
 中

中

見

中子与志拾事補鶴田之貴人儀  
 未日午時九時日り回午後三時  
 迄之四貴人庭差出控縁中掛合  
 之趣委細取了兼防也掛合  
 回人事者一級及一所方不勤之付  
 尚他日虫与上右之儀一可及  
 通此殿乃取回之也  
 中子与志拾事  
 明治十年十二月十二日

受崎

名

中

明治十年十二月十二日  
 受崎名  
 中

明治三十一年五月十一日受六月十一日稟  
 十年三月十一日決五月十一日行

主任之等心爲三原忠家

令

海官書記官

第一課

第二課

第三課

坊十五大巨浦上村之異う市徒才本の太十其

也者考考し先年旧大邦三層に即て安

分シタニ細地代全下段之候ニ付子孫九

十二ニ用願出テ決ニ付其原由由系之ニ

自録未取申候此中合セ且フ一課に有

之書取未一トニ通リ取納候得共申合

八長崎系

馬駒の馬止のり得た其以流る事体控書  
くの官公員、高得長馬控了り台在務控  
了り浦鶴白実、西中向合せは是分何多  
た新以批合た改定出は中命也

一、和馬の十名

幸局控事浦鶴白実御目書、高得在務  
中控多分務、馬官少造一評有他改定了り  
件二分親友りく、中合頁後御之、片百  
幸局白馬控了り、馬千言年馬九存了り、御事  
三傳也、由改定高分抄記、此中出古事也  
控合万中、高合也、及及、以列力片也

三月十日

坑園の長

長崎の上等裁判所控了り、片百

馬車の止りて得た其以該多件控書  
この官員も得長崎控りて在る控  
了り浦鶴白実、面も向合也此迄何多  
た此以批合て交込に申向也

一、加多白(4名)

本局控書浦鶴白実河墨、高野在控  
中控書多羽、黒川、一平有他功上りり  
件二白親友り、中合有後御上り、片百  
本局の御控り上り、御千言々有御存り、御守  
三件也、由役是言々御記、此等由御守  
控書下り、御守合此迄及御守御守也  
十二月十日、坂園の控

本局の上等裁判所控りて御守

一 由林内古千外九移名在国烟山林也全之千之額 二冊

似割書

七

石進進 什也

石進進 什也

上三子之りり

石進進



文書

印

四

九

本館と尋蔵刊一冊花子一冊

一 本館蔵古千外九拾三巻名回廻山村地全之部之額 二冊

御割書

七

石道通 付也

石道通の部

上全千二百ノリ

石道通



文書掛 印

四

九

記

一、本村內古平外、九務寺、石丸、村藩、田畑、山林、  
等處、地、石、文、同、為、一、法、雲、宗、氏、所、領、全、法、下、後、  
領、以、冊

石進進進也

早、於、石、丸、邊、割、戸、長

石、丸、寺、寺、寺、寺、寺、寺

石、丸、寺、寺、寺、寺



第一課

石、丸、寺

其正物 浦之村之異宗徒之長也  
其地代 今之可邊方之長也  
之海小 先般才之長也  
未入君之副長之長也  
之長也 之長也  
之長也 之長也

十一字之月之 第一課

第十五大正

之長

之長



貴殿先般之石之  
 通元田其字徒  
 之石大寺寺石火  
 不相分共之付  
 豫備之石分考  
 其致致及希  
 幸お核考核  
 印之考之  
 高之考之  
 及之考之

明治十三年三月

第一課 笠原七六之家

十三

日 辰 五 十 子  
米 合 元 元 長 存

平 年 六 月 九 日 附 庶 子 四 百 九 拾 七 年 三 月 八 日

本年六月九日附庶の事 四百九拾七号より以て  
已名宗代府縣に於て 新住沙雅向く竹く向く  
おぼしきと云 別紙に通す 三月三日 奉送仕事也

早見終末老高の事

明治壬午之り十九日

谷崎三三士



長宗縣控令内海忠晴殿

九

長宗縣控令内海忠晴殿

本年六月九日附庶の并 四百九拾七早うう以テ  
己志宗地之府縣に 新住 津 雅 向く 伴く 向く  
あはれしと云 別紙に 通し 三月三日 奉 別紙 仕也

早入於の志高の長

以迄壬午之りりて日

谷崎の志士



善宗縣控令 内海忠晴殿

五

三  
豊奇林 卷下 書卷 五

一 四六村藩浦上之云凡月一古濟縣浦上之里之四世宗之云凡在  
地所之云凡月一古濟縣浦上之里之四世宗之云凡在  
此所之云凡月一古濟縣浦上之里之四世宗之云凡在  
子春双方之授之云凡月一古濟縣浦上之里之四世宗之云凡在  
しり細向羽之代重又云凡月一古濟縣浦上之里之四世宗之云凡在  
其部藩縣之地方之羽之代重

一 弟多之通地所受之云凡月一古濟縣浦上之里之四世宗之云凡在  
幾四千五百之云凡月一古濟縣浦上之里之四世宗之云凡在  
内中其地之云凡月一古濟縣浦上之里之四世宗之云凡在

右之通り尋問言中奉申上候也

明隆慶元年五月

空原彈石門

明治拾陸年癸卯九月九日

應第 四百九拾七号 以 冲尋間 大 冲 音

奉 申 上 候

冲 尋 間 ケ 條

一 異 宗 ナ 信 之 他 縣 轉 任 ヲ 付 上 之 所 也

何 等 之 連 文 アリ 也

但 連 文 之 以 上 申 付 上 之 所 也 口 連

意 之 書 白 及 へ 也

右 者 有 志 明 治 二 年 己 丑 月 四 日 他 縣 轉 任

上 係 外 渡 節 冲 連 文 之 以 上 申 付 上 之 所 也

意 之 書 白 及 へ 也 然 對 上 之 所 各 縣 轉 任 也

付 上 之 所 各 縣 轉 任 也 且 道 具 持 係 也

了波既家差浦へ成て去る者成及半備へ  
附系との河口達へ心礼度

一轉任之隙若角所持、地所家之國去  
何等の事分りや

右地所へ成て邑内へ石谷上へ持  
百姓十台や領へし相成家差傳揚へ  
分り入札辨上成傳由心礼度

一轉任之度取と尚轉吊卿へ取交何等

いカ飯ニケ受クニヤ

其方より吊卿口付り山内東長業の終

一同上岸卿之上を日蒙りし所持と凡家屋

附通との口達

一轉住し 陳若月新持 地新 家通之國支

何等 意の内 右持所 相成 家通 持持

右持所 入札 持持

一轉住之 後 再 上 尚 轉 第 一 刺 一 所 持 何 等

其方 乃 是 第 一 持 口 達 以 後 復

同上 第 一 持 口 達 以 後 復 一 轉 住 之 後 再 上 尚 轉 第 一 刺 一 所 持 何 等

右 持 所 持 口 達 以 後 復 一 轉 住 之 後 再 上 尚 轉 第 一 刺 一 所 持 何 等

右 持 所 持 口 達 以 後 復 一 轉 住 之 後 再 上 尚 轉 第 一 刺 一 所 持 何 等

其乃其民縣中付山乃由是業也

一同上階脚之上より最末に以持たるは家屋

地所の事をい何等の口で連毛は之れ也

右所持たるは家屋たるは持而連毛也

持而連毛は地所者為作才之持也

口より雇入るは任有の地所出之為別所

以分元家台任非以口連有之

付持し家々入札持連有之付持

願おれ孔又支飯小屋願食れ了持者

市口連有之地所は我々も石以上

言の持而連有の領地之外是又カ被

之口連有の口連有之飯小全

全之者其も願也口所官信村也

我乃其代也其口全之口其其は其

一同上席御之上方日暮暮之新持之元家屋

地所 事方 何等 戸連 宅 戸

右所持之元家屋之持白姓兵ヨリ

持信願が他村者為作外之持兵

ヨリ雇入為任有之出之為明渡

比外元家之任取以出之連者

附指し家方入札并取以出之持兵

願方これ又支飯小左願者此了持兵

所之連有之地所之取之取石以上

之持百姓兵 領並以外是又力後

之 上 後 取 以 出 之 連 之 取 飯 小 左

宅 之 者 兵 之 願 之 所 官 兵 村 之

我 才 子 代 取 之 兵 之 分 取 兵 以 知

十六

丁亥西家... 附錄...

一轉... 何... 所... 家... 國...

右... 所... 成... 益... 益... 益...

右... 所... 成... 益... 益... 益...

一轉... 何... 所... 家... 國...

... 所... 成... 益... 益... 益...

一同上... 何... 所... 家... 國...

右... 所... 成... 益... 益... 益...

右... 所... 成... 益... 益... 益...

右... 所... 成... 益... 益... 益...

右... 所... 成... 益... 益... 益...

右... 所... 成... 益... 益... 益...

右... 所... 成... 益... 益... 益...

右... 所... 成... 益... 益... 益...

右... 所... 成... 益... 益... 益...

右... 所... 成... 益... 益... 益...

右... 所... 成... 益... 益... 益...

右... 所... 成... 益... 益... 益...

右... 所... 成... 益... 益... 益...

去之相商... 係... 亦... 官... 亦... 長...  
... 飯... 屋... 沖... 有... 達... 以... 成... 其... 化... 震... 與... 料...  
... 沖... 林... 而... 容... 亦... 下... 之... 激... 以... 成... 若...  
... 戶... 以...

右折々沖及... 間... 分... 沖... 善... 壽... 口... 上... 院...

測活指亮元年六月

第拾大過亮水邊浦上村... 二里

無... 字... 取... 知... 今

海... 知... 外

西尾... 三... 卷... 四...

Handwritten text on the right edge, including the characters '竹' (bamboo) and '下' (below).

竹下子及

也什字承卯尺

海防卯

右同

西尾字卷

弟格丑大馬

馬  
中

西虎字卷

海客外

唐神皇御紀卷之六  
神皇正統記卷之六  
神皇正統記卷之六  
神皇正統記卷之六

十三年六月十二日

守土大臣

神皇正統記



權令内海忠清殿  
是時縣大書記官高橋新吉殿

十八

神皇正統記卷之六

唐神武高平人年二十而當國  
牛謀悅太史公書名也  
少能所自進達仕途也

廿十六年正月

廿三年正月十一日

書卷之卷之四



權令內海忠晴殿以理

長清縣大書記官高橋新吉殿

記

去年春旧方村蒲浦上村ノ内所

其田自有之其田一取氣相成也

田白田山林他之滿江土賣却之儀ハ素

林不割之者然ハ下民共長崎縣下

昔江門賣真致ニ候内轉住之異宗

徒共の賣真渡ノ者共同徒共之己冬ノ居所

退去跡在是地ニ相成候趣申出候因テ

其處ニ以テ縣廳に照會之ニ當相違無

之旨に候其内銘々密ニ請返候者自ニ多ク

有之ルニ曰カレテ請返候ニ不相成今ノ藩物

御談候上非常申之ニ留置ニ以テ役卯

代價付ニ通

ナリ

一、其言盡言、今ハ至當ニ  
 價ヲ極メ凡九千  
 貫、文、熱、ノ、錢、高、當、今、為、酒、廳、ヲ、出、金、也、  
 相成、小、之、州、譯、書、傳、相、浴、左、ノ、人、負、之、相、渡、  
 田、畑、山、林、受、取、由、控、等、七、具、出、不、中、  
 是、早、數、年、相、成、亦、交、數、儀、ハ、相、合、ノ、事、  
 情、得、其、概、略、上、申、仕、候、也、

予、夫、區、三、區、等、瀨、村

明治十年五月

牛津悦右衛門



縣廳ヨリ山里ヨリ出張人名

鶴田大属  
 高石少属  
 種田連平



下中、了あ、たさ、文、ア、リ、レ、ヤ

御、上、事、ま、り、こ、ち、に、事、申、上、り、し、ま、り、し、ま、り、し、

、ま、り、し、ま、り、し、ま、り、し、

一、勢、得、し、候、に、み、つ、り、お、し、地、中、う、あ、り、候

、あ、り、候、に、ま、り、し、ま、り、し、

一、勢、得、し、候、に、ま、り、し、ま、り、し、

、あ、り、候、に、ま、り、し、ま、り、し、

一、口、上、り、候、に、ま、り、し、ま、り、し、

、あ、り、候、に、ま、り、し、ま、り、し、

以上、お、り、候、に、ま、り、し、ま、り、し、

御、上、事、ま、り、こ、ち、に、事、申、上、り、し、ま、り、し、

中、一、年、あ、り、候、に、ま、り、し、ま、り、し、

一申し居ぬやうに日暮りて物もなほ  
重なる行年一月の行おこふ時より  
名もなき一物成片なり

以て言ふ少縁とありにる向に侍らす

易  
易  
易

易  
易  
易

一申し居ぬやうに

易  
易  
易

去る心もなし年一  
時白くツツク法流  
上ケ日暮り少事  
結キマハレト

Handwritten text in red ink at the top of the page.

Main body of handwritten text in black ink, consisting of several lines of cursive script.

Handwritten text in black ink, possibly a signature or a specific note.

Handwritten text in black ink, continuing the cursive script.

Handwritten text in black ink, appearing as a separate line or section.

Handwritten text in black ink, including some larger characters and possibly a date or reference.

Handwritten text in black ink, located at the top of the lower page.

Main body of handwritten text in black ink on the lower page, continuing the cursive script.



然るに大書一は永御下  
の空はついでに御下  
系得半書一総ちまつて  
實は御下の中へ御下  
つたあつて御下  
法は御下へ御下  
御下へ御下へ御下へ

御下へ御下へ

御下へ御下へ

浦と村墨字徒所持の烟方村着

浦之村墨の字は徒に所持の田畑方村を  
三つに分ち代名を誅着爲す所は融の地と極の心  
者多し是の字は方類出此者有る者其以て掛り  
欠り有りは融の書多し融の地有る者其以て掛り  
融の字は融の書多し融の地有る者其以て掛り  
融の字は融の書多し融の地有る者其以て掛り  
融の字は融の書多し融の地有る者其以て掛り

土年五ノノ

第一ノ



亦ノ課

記

一異字後(美係重海出的帳

一冊

明倫二年己丑月方

一而中編也

一冊

清之海

長山

浦之村守

西尾之石橋

深垢外八

石者元為宗地所大村屬也  
沙下之渡一級之石僅段中出之石其地也

羊抄之石區別不長

土年七月三日

東倉之字



才一課

沙中

25

七号

北三

Vertical text on the left margin, partially obscured.

明治七年七月十三日  
州議

二年 月 日 次 月 日 行

主任 藤省三

委任物

一 源

嘗と承るに... 田宗宗... 此の如く... 此の如く... 此の如く... 此の如く... 此の如く...

明治八年七月十日

長崎縣立長崎図書館

第... 号

此の如く... 田宗宗... 此の如く... 此の如く... 此の如く...

此の如く... 田宗宗... 此の如く... 此の如く... 此の如く...

此の如く... 田宗宗... 此の如く... 此の如く... 此の如く...

八

七

おん新地之字宗澤ありのりて  
月十日午未おむ所の  
第一條一の知書以高  
但多る字澤あり、  
意一の所計  
四六  
十之

名

新地八万五千文

第十五大區之長

其區内浦上村元興宗徒者田太十其

家分八石五斗四分

第十五大區之長

其區內浦上村元黑宗造赤田太十其  
池之者有願出地代金一件二付取調  
之物有之也河田村元庄屋宮原輝右衛門  
同通奉月十五午前九時氣配、出願  
第一課一百石出此方相違出奉

但宮原輝右衛門、之長引通達不計

奉

明正二年七月十日

長海孫



新加八万五千石

第十五大區戶長

其區內浦上村元異宗造赤田六十其  
池之者有頭出地代金一件二付取調  
之物有之其河内村元庄屋官原詳古事  
同通奉月十五午前卯九時新屋一出頭  
第一課一不居出此古村達五奉

但官原詳古事一、二之長其通達不計

古事

明治七年七月十日

長海



二月十六日受ハ月  
月 日 沙  
日 行 格 子

領 省 也 以 乃 後

皇 令

皇 令

皇 記 宮

第一 保 小 書

皇 令

皇 令

皇 令

早 止 取 神 宗 乃 南 之 亦 皇 宗 徒  
地 代 宗 之 渡 亦 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃  
十 也 乃 已 副 乃 皇 宗 乃 乃 乃 乃 乃  
皇 宗 徒 通 放 入 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃  
乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃  
記 膳 入 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃  
乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

批 牙 八 百 十 一 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

月十六日受ハ月... 月... 日... 日...

日行格五

領方... 領...



書紀宮

第一 保小倉



足下... 地代... 十... 皇宗... 勤... 記... 以...

第一... 第一...

第一... 第一...


長  
山  
野  
集

浦とわ曰黒宗統地代屋より後  
少るは城の白蘭河交後多る  
後子時る白の覺るは為存持る  
く分撰初の及十の午交の  
のの交後五の交の交の  
但到<sup>上</sup>の<sup>上</sup>子<sup>上</sup>の<sup>上</sup>一<sup>上</sup>保<sup>上</sup>、<sup>上</sup>の<sup>上</sup>和<sup>上</sup>立<sup>上</sup>  
くく

三月、  
長  
骨  
節  
骨  
骨

主任物室口

一年 月 日 月 日 行

委任物 

印一深

多岐乃所物深、南上お山名包  
多岐乃所物深、南上お山名包  
多岐乃所物深、南上お山名包  
多岐乃所物深、南上お山名包  
多岐乃所物深、南上お山名包  
多岐乃所物深、南上お山名包  
多岐乃所物深、南上お山名包  
多岐乃所物深、南上お山名包  
多岐乃所物深、南上お山名包  
多岐乃所物深、南上お山名包

印一深

里一深

牙三子五石七千三三

二五石深

廿六 是 青 系

明治二十一年 月 日 受、月 日 廻議  
主任 齋宮 口 清

委任物

印一深

多岐乃所領、南上、不、以、成、包、云、  
原、學、多、云、の、以、之、い、い、せ、可、移、上、万、色、の、お、  
下、之、中、の、者、の、後、色、由、の、者、の、可、之、於、ハ、  
万、色、の、是、之、所、お、住、者、の、中、の、者、の、其、の、同、色、  
向、之、左、の、所、リ、の、之、の、由、之、の、成、之、の、及、之、の、及、  
所、領、の、心

印一深

里一深

一、五、三、子、五、百、七、十、三、三、三、三、  
二、五、三、子、五、百、七、十、三、三、三、三、

長山原

於此方色... 宗徒... 地... 卷

八月一日... 行... 報... 鳴... 下... 隆

八月一日受、月一  
日行  
主柱  
報嶋也亦降



記書

初二保



宗徒地代價一併有日お四庄全

宗徒地代價一併有日お四庄全

宗徒地代價

宗徒地代價一併有日お四庄全

宗徒地代價一併有日お四庄全

宗徒地代價一併有日お四庄全

宗徒地代價一併有日お四庄全

宗徒地代價一併有日お四庄全

宗徒地代價一併有日お四庄全

宗徒地代價一併有日お四庄全

多岐一うあきさきさき

但平人あゆみさき。一深、このあき

あきさき

しき日。

七 智 名

明治八月二日受

日次八月廿一日

行

廻

主注 行省

山

きんこうあきこり

但平人あけくさけ、平一、深、あふ

あきこり

きんこうあきこり

明治八年八月二日受 月 月 烟議  
二年 月 日 次八月廿一日行

主任 初省五子海

委任物金

初一保

初初、うち己、幣信集の初海

一初二千九百三十一号

○初初六子己 自長中

可る己の三三章初嬉 即病多初 出さる己 出さる己  
被高初乃不初初 出さる己 出さる己 出さる己  
未生初人初出さる己 出さる己 出さる己 出さる己  
初、早、出さる己 出さる己 出さる己 出さる己  
初、早、出さる己 出さる己 出さる己 出さる己



一、白、保、為

三日受八月三日

日決 月日行

土仕 節書より

御書

日記言

和一深

御

御

御

原市水石り十二早

宗儀地代言り後録しりも之る御的

宗儀地代言り後録しりも之る御的

宗儀地代言り後録しりも之る御的

宗儀地代言り後録しりも之る御的

宗儀地代言り後録しりも之る御的

宗儀地代言り後録しりも之る御的

宗儀地代言り後録しりも之る御的

宗儀地代言り後録しりも之る御的

宗儀地代言り後録しりも之る御的

御

御

御



其間、波は受りて、

伊勢のちとこ、六、

又この三三、お、  
ちがふ、中、  
地、  
十、  
年、  
は、

江、  
月、

明治 月 日 受 八月 廿三日 曹



月 日 受 八 月 廿 三 日 稟  
月 日 決 月 日 行

主任

みかるとうきおの

忍辱令

書記官

オハ一

お 誠 返 自 向 力 多 夫 其 身 之 故 之 道  
主任 曰 式 之 後 之 會 之 能 哉 之 多  
オハ一也

上申書

南上お志内五十外多於四谷 長年の御事

河内之國中皇白鳥信仰之御事 御事

鳥取お志内皇白鳥信仰之御事 御事

田方お志内皇白鳥信仰之御事 御事

山崎お志内皇白鳥信仰之御事 御事

河内お志内皇白鳥信仰之御事 御事

大和お志内皇白鳥信仰之御事 御事

美濃お志内皇白鳥信仰之御事 御事

今持之主お志内皇白鳥信仰之御事 御事

多代金お志内皇白鳥信仰之御事 御事

多代金お志内皇白鳥信仰之御事 御事

三十一 長 寄 系



酒と多量に飲みし所、  
身は互に、

一 明治二二年中、  
係り物、  
記帳、  
多し、  
四地、  
あつ、  
確々、  
之れ、  
一、  
り、

御上、

海と水山電氣会社  
同大、水電局

同大の西側から  
橋本地区の  
法則、近代の  
北のま、

何れも、素直に  
代を、白、

折、ま、

多、地、

三、

多、地、

多、地、

多、地、

多、地、

多、地、

ちよとるの...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...

四池多...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...

確々に...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...

ハナオ左一うり書ヨリ地所取方々ノ条の任ヲ受テ  
夫ノ費取キ地ノ寸寸一尺ノ計<sup>陸ノ</sup>曉部  
所取方々、一うり書、取リ主ニ

但地所取方々、取方々、取方々、取方々、取方々、  
取方々、取方々、取方々、取方々、取方々、

一取方々、取方々、取方々、取方々、取方々、取方々、  
取方々、取方々、取方々、取方々、取方々、取方々、

一取方々、取方々、取方々、取方々、取方々、取方々、  
取方々、取方々、取方々、取方々、取方々、取方々、

一取方々、取方々、取方々、取方々、取方々、取方々、  
取方々、取方々、取方々、取方々、取方々、取方々、

一取方々、取方々、取方々、取方々、取方々、取方々、  
取方々、取方々、取方々、取方々、取方々、取方々、

一取方々、取方々、取方々、取方々、取方々、取方々、  
取方々、取方々、取方々、取方々、取方々、取方々、

一取方々、取方々、取方々、取方々、取方々、取方々、  
取方々、取方々、取方々、取方々、取方々、取方々、

三十三 長 奇 系

申上ニ

是の事を知るに... 申上ニ... 方お屬く此... 申上ニ... 方お屬く此... 申上ニ... 方お屬く此...  
此の事を知るに... 申上ニ... 方お屬く此... 申上ニ... 方お屬く此... 申上ニ... 方お屬く此...  
此の事を知るに... 申上ニ... 方お屬く此... 申上ニ... 方お屬く此... 申上ニ... 方お屬く此...  
此の事を知るに... 申上ニ... 方お屬く此... 申上ニ... 方お屬く此... 申上ニ... 方お屬く此...  
此の事を知るに... 申上ニ... 方お屬く此... 申上ニ... 方お屬く此... 申上ニ... 方お屬く此...

... 申上ニ... 方お屬く此... 申上ニ... 方お屬く此... 申上ニ... 方お屬く此...  
... 申上ニ... 方お屬く此... 申上ニ... 方お屬く此... 申上ニ... 方お屬く此...  
... 申上ニ... 方お屬く此... 申上ニ... 方お屬く此... 申上ニ... 方お屬く此...  
... 申上ニ... 方お屬く此... 申上ニ... 方お屬く此... 申上ニ... 方お屬く此...  
... 申上ニ... 方お屬く此... 申上ニ... 方お屬く此... 申上ニ... 方お屬く此...

一 一のりつゝ一のりつゝ  
一のりつゝ一のりつゝ  
一のりつゝ一のりつゝ  
一のりつゝ一のりつゝ  
一のりつゝ一のりつゝ  
一のりつゝ一のりつゝ  
一のりつゝ一のりつゝ  
一のりつゝ一のりつゝ  
一のりつゝ一のりつゝ  
一のりつゝ一のりつゝ

一 一のりつゝ一のりつゝ  
一のりつゝ一のりつゝ  
一のりつゝ一のりつゝ  
一のりつゝ一のりつゝ  
一のりつゝ一のりつゝ  
一のりつゝ一のりつゝ  
一のりつゝ一のりつゝ  
一のりつゝ一のりつゝ  
一のりつゝ一のりつゝ  
一のりつゝ一のりつゝ

一 一のりつゝ一のりつゝ  
一のりつゝ一のりつゝ  
一のりつゝ一のりつゝ  
一のりつゝ一のりつゝ  
一のりつゝ一のりつゝ  
一のりつゝ一のりつゝ  
一のりつゝ一のりつゝ  
一のりつゝ一のりつゝ  
一のりつゝ一のりつゝ  
一のりつゝ一のりつゝ

一 一のりつゝ一のりつゝ  
一のりつゝ一のりつゝ  
一のりつゝ一のりつゝ  
一のりつゝ一のりつゝ  
一のりつゝ一のりつゝ  
一のりつゝ一のりつゝ  
一のりつゝ一のりつゝ  
一のりつゝ一のりつゝ  
一のりつゝ一のりつゝ  
一のりつゝ一のりつゝ

一 一のりつゝ一のりつゝ  
一のりつゝ一のりつゝ  
一のりつゝ一のりつゝ  
一のりつゝ一のりつゝ  
一のりつゝ一のりつゝ  
一のりつゝ一のりつゝ  
一のりつゝ一のりつゝ  
一のりつゝ一のりつゝ  
一のりつゝ一のりつゝ  
一のりつゝ一のりつゝ



内研介一少控、小つ屏、出久人モノ、二付地、巧、  
上、  
金、  
高、  
係、  
又、

係、  
西、  
一、

有、  
形、  
地、

際、

陰... 代價... 領... 最... 以... 有... 一... 何... 何... 何... 何...

乃... 新七...

三十四 是 寄 系

長州縣

但本件此代... 長州縣... 大... 山... 高... 以...

明治... 二月廿二日... 長州縣... 知事... 謹言

縣令内海忠勝殿

明治

長嶺果

但存此代金少後多為其外  
其係其部之大部自出方其  
其部之白部之其

其部之其部之其部

其部之其部之其部

縣令内海忠勝殿

明治八月廿日受...月...日行...  
委任物...  
主任...  
...

委任物

伊...  
...

...

...

...

...

浦...  
...

十一...

三十五

...

...

三月

名  
明  
の  
名  
各

長

明治 八月 廿九日 受  
 士年 月 日 伏  
 月 月  
 日 行 巡 請  
 主任 殿 爲 少 爲

委任物(金)

予 予 己 少 己 爲 所 像

社 牙 文 四 下 々 々 初 一 丁 己 行 是 一

南 上 所 四 里 宗 徒 地 所 所 補 々 像 二 行 牙  
 初 且 大 己 戶 是 今 今 所 及 所 像 像 以 所 有 之 其  
 書 右 一 頁 己 同 係 之 分 所 確 向 己 言 像 爲  
 以 一 丁 戶 出 考 方 所 是 同 也 事 了

己 丁 白 々 是 智 山 里 所

去開治之平以之唐縣田細心耕夫買之令其行分  
亦其北內之田區西山脚出之區脚 五 海封剛寺野所  
遠之中央右田細山林火令種之始其大令之亦調其年  
西山脚出之區脚 六 代全種之其其大令之亦調其年  
剛寺野所之其種之其始其大令之亦調其年

于之奇

以法平十月八

大長富之其其國



既為五書之屬

39

去夏朔旦之年以爲舊縣田畑山林交易之令沙行分  
亦在廿四之內西原西山脚之石原脚 寺 海封剛寺野所  
遠く先大田畑山林之令種之船井大乃令之亦調北年  
西山脚之石原脚之代全種之石井大乃令之亦調北年  
剛寺野所之令種之石井大乃令之亦調北年

以正平十年十月八

于文司

大長富之丞



既爲五書序

39

十三

二十七

長富之丞

受書

一  
新美湖沼部年十二月  
農務院專務課所轄  
山林引上  
地金部所出  
園沼  
後  
受  
取  
多  
烟  
古  
連  
子  
其  
在  
者  
履  
以  
身  
受  
取  
也

明治三十二年十月五日

第一万五拾一  
湖古ノ  
七  
地

池田福三

長崎縣令河海忠勝殿



90

新字一通一也名夏平下注也

以治士平十日

平長

富永山周



日圓山林堂買之造像并四記

旧大村屋内田畑山林等賣之、法原、河田記  
永調中、又別紙、通法三原、外、河田記、法原、河田記  
并法三原、併り也

弟、移、右、邊、別、紙、長

土年十月十日

并、賣、右、邊、方



長野縣令内海忠清殿

81

十四

三十九

長野縣令内海忠清殿

写

妻縣文紙地ありて其共山林田畑等買つて御寺  
是道今村止りぬるも其省り族ありて相  
あつてむい右辨心序遠くくらの有らば  
味くえまくお徳こ可も一第一向後お省り族  
ありて其親れとて可もり来し旨堅く可も心序  
この也

石通市今安漢 可も徳

二庚午二月

石通 法書附せりるお通り来りて可も  
け也快ありて順通ありて可も也この也

二庚午二月七日

那方

三十三丁五小五三二五五合之

河口縣管下諸村五

小  
長  
村

湖

可  
村

村

渡

字

従来大村藩内へ 田畑美 山林より南へ 重積徳波  
又ハ七代重積よりとも 出くお近きより通 高野  
右より丸堀へと 繋る同藩へ 可引波美よりお討  
高野 越後内侍 徳波よりハ 高野より出く内  
可申出 石室より 西よりハ 高野採用より 高野お近き  
お申

庚午二月

右の通 法蓮より 得るを 意 可申出 高野に 出く状  
あり 順進 あり 可申出 高野の如

高野方へ

高野村

字

從來大村爲内、目相美山林、川南、重鉄、徳渡  
又ハ七地、堂、請、所、り、か、き、も、此、く、お、通、主、ら、通、高、那  
右、し、ら、水、調、く、之、給、る、同、處、く、可、引、渡、若、月、お、封  
高、遠、熟、得、内、併、領、出、渡、ら、の、高、月、若、月、出、く、向  
可、申、出、石、定、り、向、ら、ら、ハ、水、致、採、用、ら、る、山、宮、お、通、是  
お、事

庚午二月

右、通、法、通、之、月、得、手、之、議、可、申、原、に、付、如、伏  
了、順、通、爲、可、可、お、事、ら、の、如

二、高、那、方、向

高、那、村

四十一

村之變

孫女村

之村

脚

心

只眼心管下講來五大

明治 九月廿七日 受  
二年、月廿七日 決

月

日行

主任

石原方々

委任物

初一限

藤知干而平七号

初十廿方三

初十廿方三之号、

明以三、

中分取納、

増分取納、

増分取納、

増分取納、

増分取納、

増分取納、

四十二

七

長山白雲堂... 長山景

口... 一... 一... 一...

古... 一... 一... 一...

一... 一... 一...

但... 一... 一... 一...

可... 一... 一... 一...

若... 一... 一... 一...

長... 一... 一...

山崎

長崎縣管下第拾五方區一  
長山

口をいしこり多し度成

古の甲上水口在る市川記類有ゆ

一の戸出きりゆり

但し記多難くしあつて其際におま

り節々ある所記類のしほり多

きりあると息道ありたり

七重の金

明治 九月廿五日受  
十年、月某日決

月 月

日行 日行

主任 履以爲カカ

委任物

分一保

初十一万三千元、

慶應義塾

初十一万三千元

明治 九月廿五日受  
十年、月某日決  
月 月  
日行 日行  
主任 履以爲カカ  
委任物  
分一保  
初十一万三千元、  
慶應義塾  
初十一万三千元  
明治 九月廿五日受  
十年、月某日決  
月 月  
日行 日行  
主任 履以爲カカ  
委任物  
分一保  
初十一万三千元、  
慶應義塾  
初十一万三千元



長山縣

牛呼院

三  
~~四~~ 三  
 此治四...  
 昔分兩...  
 夢賀...  
 海...  
 分...  
 五...  
 焉...  
 乃...  
 古及...

漸くお元景宗後  
地代金下渡能演説

地代金下渡能・泉由・明治四年中  
宗後たる者地府制道放之者節銘々所持  
動之能も動之能共一両官所に於て而預り  
取ハナリ家名ホ一両道者、頃与へ田畑ハ  
正宗中高持者ハ預ケ賣物、外、多カ  
化徳系金等取之又概稀等、類モ又々賣  
却之代價ハ当座、取ルヤシモノナリ故ニ右等ノ  
金多ク合ニテハ而因事リ當所亦深ニテ保護  
致シ置ラ好也

一、金ハ官没ノ金ナリト事ラハ深長ノ後、  
一、金ハ官没ノ金ナリト事ラハ深長ノ後、  
一、金ハ官没ノ金ナリト事ラハ深長ノ後、

十五

地代金  
一、金ハ官没ノ金ナリト事ラハ深長ノ後、

浦上のお元景宗後

地代金下渡能演説

一 地代金下渡能・泉由・明治四年中興

宗後たる者地府制道放之予節録々行持、

勤王は石動立居共一此官府に於て而預り、

政トナリ家名ホハ一此道、者、資与へ田畑ハ

正宗中高持ノ者ハお預ケ資物、外、多カ

化儀系金等兩之又概稀等、類モ又々賣

却之代價ハ当座ニ取ラセシモノナリ故ニ右等ノ

金多合ニテハ而因耳リ当内取六課ニテ保蔵

致シ置テ、所也

古ハ官没ノ金ナリト尋ラ六課長ノ儀リ

一 此ハ二山素之陽氣ノ土地五ノ賣買禁示、所右異

十五

五

五

五

五

五

北条

宗徳共行赤松之六村高頼地、而惟浦上村西條が共  
三行徳之田畑不買受ヶ亦ハ質取置立分存之辰  
二日即々及不露古着物土地分別、制致紛乱辰  
所行不巧と七村着有郡治所参する是郡治方等、  
諸役多浦二おハ出浪々々し是案の物ハ談判ニ及ヒ  
古地所ハ元下方ニテ賣買々々々々ハ稟價ニ成ハ  
賣割成ハ割亦ノ割増々々ハ大お着ハ買戻し  
相成々々々々之マレ々々

石大お着ハ買戻しニ相成々々地所、負取亦ハ代  
一重ノ取ハ割増甲乙丙三冊之由ハ記号せし此着  
以テ詳々ナリハス

不為知事  
是案の物ハ大お着  
賣買々々々々ハ稟價ニ成ハ  
賣割成ハ割亦ノ割増々々ハ大お着ハ買戻し  
相成々々々々之マレ々々

不... 元...

元...

王... 帳... 簿... 帳... 簿... 帳... 簿... 帳... 簿...

細... 帳... 簿... 帳... 簿... 帳... 簿... 帳... 簿...

古... 帳... 簿... 帳... 簿... 帳... 簿... 帳... 簿...

古... 帳... 簿... 帳... 簿... 帳... 簿... 帳... 簿...

帳... 簿... 帳... 簿... 帳... 簿... 帳... 簿...

帳... 簿... 帳... 簿... 帳... 簿... 帳... 簿...

帳... 簿... 帳... 簿... 帳... 簿... 帳... 簿...

帳... 簿... 帳... 簿... 帳... 簿... 帳... 簿...

帳... 簿... 帳... 簿... 帳... 簿... 帳... 簿...

帳... 簿... 帳... 簿... 帳... 簿... 帳... 簿...

帳... 簿... 帳... 簿... 帳... 簿... 帳... 簿...

帳... 簿... 帳... 簿... 帳... 簿... 帳... 簿...

地身果

二、おののほろろ、  
二、浅しりる分、  
五、愛取、  
亦り、  
徳、  
意、  
十、

一、若り、

志、

十日、

一 湖の可畏層 湖の可分 湖の可分 湖の可分 湖の可分  
二 湖の可分 湖の可分 湖の可分 湖の可分 湖の可分  
三 湖の可分 湖の可分 湖の可分 湖の可分 湖の可分  
四 湖の可分 湖の可分 湖の可分 湖の可分 湖の可分  
五 湖の可分 湖の可分 湖の可分 湖の可分 湖の可分  
六 湖の可分 湖の可分 湖の可分 湖の可分 湖の可分  
七 湖の可分 湖の可分 湖の可分 湖の可分 湖の可分  
八 湖の可分 湖の可分 湖の可分 湖の可分 湖の可分  
九 湖の可分 湖の可分 湖の可分 湖の可分 湖の可分  
十 湖の可分 湖の可分 湖の可分 湖の可分 湖の可分

一 湖の可分 湖の可分 湖の可分 湖の可分 湖の可分  
二 湖の可分 湖の可分 湖の可分 湖の可分 湖の可分  
三 湖の可分 湖の可分 湖の可分 湖の可分 湖の可分  
四 湖の可分 湖の可分 湖の可分 湖の可分 湖の可分  
五 湖の可分 湖の可分 湖の可分 湖の可分 湖の可分  
六 湖の可分 湖の可分 湖の可分 湖の可分 湖の可分  
七 湖の可分 湖の可分 湖の可分 湖の可分 湖の可分  
八 湖の可分 湖の可分 湖の可分 湖の可分 湖の可分  
九 湖の可分 湖の可分 湖の可分 湖の可分 湖の可分  
十 湖の可分 湖の可分 湖の可分 湖の可分 湖の可分

簡上符四異宗後地所并下之儀之始承有

一 和儀明治二年十月日 同日午二月三日浦上村ノ内字西郷 御本村  
手代役相勤候事

一 明治二年ノ浦上村山甲右ノ領地 百姓共異宗信所ニ日各

護区ノ節警衛トシテ四大村藩士數於右西郷庄屋上上兩三日

諾心相成申候 右異宗人數且所吟味ノ次第其他本村支取違

存不申候事

一 石山里御異宗徒各藩立退後ノ領人氏口大村領人氏

田畠山林密賣ノ事付 自允相顯シ候旨早速又賜相奉候

事付 他領地所賣買ハ併シモ清林示別ノ儀ニ右此日定賣

款ニテ証看中村役人ノ自具 異ノ旨所存候事

一 右密賣ノ處方ニ自田大村藩役人右浦上村上字

御本役人不同村出澤清 談判ノ上右領方且地所請

四十七

候願末左、奉申上行

一 共節四打藩より出張、又、頁左之通

郡治少、奉

福田弘一

郡治役

牛津收存所

同、又、習

今村佐一即

右者浦上村西之庄屋且七、崎、大村郎等此為

一 七、崎、縣より出張ノ役、頁左ノ通

大島

鶴田 實

外二三名

姓名存不申

右八浦上村山甲左屋止、為、候、式、日、勤、終、存、不、申

右者明治三年、奉、申、秋、二、縣、候、様、相、覺、申、候

一 右、双、方、評、判、ノ、邊、極、細、存、不、申、候、得、共、左、ノ、部、分、今、二、軌、ノ、又、々

山崎村に在りて、昔より之に  
其地即ち大村に在りて、其地之  
部、治方ノ名ニ在リ

孫氏後

同、又之類

右者、浦上村向之左、屋止、長崎、大村、郎等、此為

一、歩崎、縣多、出、居、ノ、役、復、在、ノ、通

大属

鶴田 實

外二之各

姓名存不申

右、八、浦、上、村、山、里、左、屋、止、篇、役、或、ハ、可、勤、役、存、不、申

右者、明治三年、春、手、春、弓、秋、二、懸、ノ、修、繕、相、覺、申、候

双方、清、裁、判、ノ、決、極、委、細、存、不、申、候、得、去、左、ノ、部、分、今、ニ、孰、テ、

價、目、的、相、立、申、候

一、事、限、在、ノ、部

以價目的相互申候

一 年限至ノ部

一 年滿ノ部

一 元候不知部

一 之候相分ノ部

一 河月何日迄、地所買請居候趣申立出之方ハ双方共

採用不相成引揚、取中ニ申候双方ノ村方也而吉

取中ノ候相覺申候

一 石榊河邊議相成候者四方村領人民より、七時領人民より、

有之地所出役手傳ノ上、一月取調候儀、有之候

一 明治四年地所石榊和上河預相成迄、適宜者申候也

取中適置候河上被置

元引迄、明治四年迄、懸村文

候議上代價申候者申候

相見申候

一 石地所申候下代、此論照舊儀之確、不相分也明治四年迄

知方清談判，攻極委細存名田  
八優目的相立申優

一 幸 限 兵 部

一 幸 滿 部

一 元 我 不 知 部

一 文 我 相 方 部

九月廿五日 丁換 四千五百四拾二石 又 以 大 村 御 妻 一 石 一 石 部  
内計 卜 申 又 存 一 石 一 石 時 以 中 一 喜 物 一 部 右 門 上 一 部 白 岐 事 一

右 有 存 留 等 一 石 一 石 之 類 一 部 分 不 申 私 覺 一 部 上 一 部 也

其 於 大 石 部 中 一 部 是 廣 村 七 番 地

士 族

明治 壬午 八月

宮 原 澤 右 門



長 崎 縣 權 令 内 海 志 勝 殿

浦上村 地所 一件 存始末書

私紋の旨三年より向只年四月迄大村旧知  
大村徳熙私印等計係指附内相勤罷在在  
心二私ノ事務力川此聖丑年四月迄勤續  
罷在在

右勤役中の旨三康年年十二月中浦上村地  
所一件存私印より下迄三才方貫文大村徳熙  
務課上附調 一 戒示休ハ私上段々完 二 多  
ヨリ示了 右在在平

右 山田金右 及百香公又叶一廿月也  
 及百香公又叶一廿月也

其後山田正年秋比浦上村地不拂才代八金  
 正年同村正年官尔原金  
 正年同村正年官尔原金  
 正年同村正年官尔原金  
 正年同村正年官尔原金  
 正年同村正年官尔原金  
 正年同村正年官尔原金

正年同村正年官尔原金  
 正年同村正年官尔原金  
 正年同村正年官尔原金  
 正年同村正年官尔原金  
 正年同村正年官尔原金  
 正年同村正年官尔原金  
 正年同村正年官尔原金

正年同村正年官尔原金  
 正年同村正年官尔原金  
 正年同村正年官尔原金  
 正年同村正年官尔原金  
 正年同村正年官尔原金  
 正年同村正年官尔原金  
 正年同村正年官尔原金

甲似右、家杖榜山雄左、甲上、自右私、  
 自依、原、行、并、于、在、隙、深、以、于、去、捨、五、祝、之、可、有、之、  
 乙、十、初、原

右之通 右逢一甲上似也

第十六天區三區三區村士族

明治土年 八月 陸奥府民志

長崎縣知事 内閣書記

浦上村一併之件、其始末書

一、初、弘治四年（1492）八月二十日、大村元景、郡内、赤松、  
 大村元景、自始、有之、地所、買入、房、始、末、後、其、所、不、志、  
 有、之、他、篇、地、所、買、入、創、規、其、多、地、所、長、成、半  
 計、判、之、上、買、入、始、末、在、中、上、也、

一、所、知、之、屋、年、年、四、大、村、元、景、地、之、所、

地、所、有、之、右、左、之、中、也、  
 地、所、有、之、右、左、之、中、也、  
 地、所、有、之、右、左、之、中、也、

地、所、有、之、右、左、之、中、也、  
 地、所、有、之、右、左、之、中、也、

地、所、有、之、右、左、之、中、也、  
 地、所、有、之、右、左、之、中、也、

地、所、有、之、右、左、之、中、也、  
 地、所、有、之、右、左、之、中、也、

弘治四年八月二十日、大村元景、郡内、赤松、

大村之屋敷部法方

一、新築の地所は、延享元年より、同二年十一月二十日、大村之屋敷部法方  
より、大村之屋敷部法方より、大村之屋敷部法方より、大村之屋敷部法方

大村之屋敷部法方より、大村之屋敷部法方より、大村之屋敷部法方より、大村之屋敷部法方

大村之屋敷部法方より、大村之屋敷部法方より、大村之屋敷部法方より、大村之屋敷部法方

大村之屋敷部法方より、大村之屋敷部法方より、大村之屋敷部法方より、大村之屋敷部法方

一、大村之屋敷部法方より、大村之屋敷部法方より、大村之屋敷部法方より、大村之屋敷部法方

大村之屋敷部法方より、大村之屋敷部法方より、大村之屋敷部法方より、大村之屋敷部法方

大村之屋敷部法方より、大村之屋敷部法方より、大村之屋敷部法方より、大村之屋敷部法方

大村之屋敷部法方より、大村之屋敷部法方より、大村之屋敷部法方より、大村之屋敷部法方

大村之屋敷部法方より、大村之屋敷部法方より、大村之屋敷部法方より、大村之屋敷部法方

大村之屋敷部法方より、大村之屋敷部法方より、大村之屋敷部法方より、大村之屋敷部法方

大村之屋敷部法方より、大村之屋敷部法方より、大村之屋敷部法方より、大村之屋敷部法方

五十一

一 土地代價、見前、  
一 土地代價、見前、

一 土地代價、見前、  
一 土地代價、見前、

一 土地代價、見前、  
一 土地代價、見前、

一 土地代價、見前、  
一 土地代價、見前、

一 土地代價、見前、  
一 土地代價、見前、

一 土地代價、見前、  
一 土地代價、見前、

二村子田十... 其長崎大村... 津浦...

一、此等... 其長崎大村... 津浦...

二、... 其長崎大村... 津浦...

三、... 其長崎大村... 津浦...

四、... 其長崎大村... 津浦...

五、... 其長崎大村... 津浦...

六、... 其長崎大村... 津浦...

七、... 其長崎大村... 津浦...

八、... 其長崎大村... 津浦...

九、... 其長崎大村... 津浦...

十、... 其長崎大村... 津浦...

十一、... 其長崎大村... 津浦...

十二、... 其長崎大村... 津浦...

十三、... 其長崎大村... 津浦...

多し申す補存 申す申す 申す申す 申す申す 申す申す

土地代價

一土地代價 山中に於て之を以て其の多きを以て其の少きを以て  
連日におく後之れ其の多きを以て其の少きを以て其の多きを以て  
より小なる代書代價其の帳面より其の多きを以て其の少きを以て  
其の多きを以て其の少きを以て其の多きを以て其の少きを以て  
其の多きを以て其の少きを以て其の多きを以て其の少きを以て

鶴田大屋

高石小房

鶴田大屋

高石小房

一何れに年止り申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す  
依り土地清透方其の多きを以て其の少きを以て其の多きを以て  
其の多きを以て其の少きを以て其の多きを以て其の少きを以て

一、後三年十一月廿七日申  
一、後三年十一月廿七日申  
一、後三年十一月廿七日申

用御之と福田弘人  
一、後三年十一月廿七日申  
一、後三年十一月廿七日申

一、後三年十一月廿七日申

一、後三年十一月廿七日申  
一、後三年十一月廿七日申

一、後三年十一月廿七日申  
一、後三年十一月廿七日申

一、後三年十一月廿七日申  
一、後三年十一月廿七日申

一、後三年十一月廿七日申  
一、後三年十一月廿七日申

一、後三年十一月廿七日申

一、後三年十一月廿七日申  
一、後三年十一月廿七日申

一、後三年十一月廿七日申

一、後三年十一月廿七日申  
一、後三年十一月廿七日申

一、後三年十一月廿七日申

用済之と福田人... 勘

一、... 勘  
一、... 勘  
一、... 勘  
一、... 勘  
一、... 勘  
一、... 勘  
一、... 勘

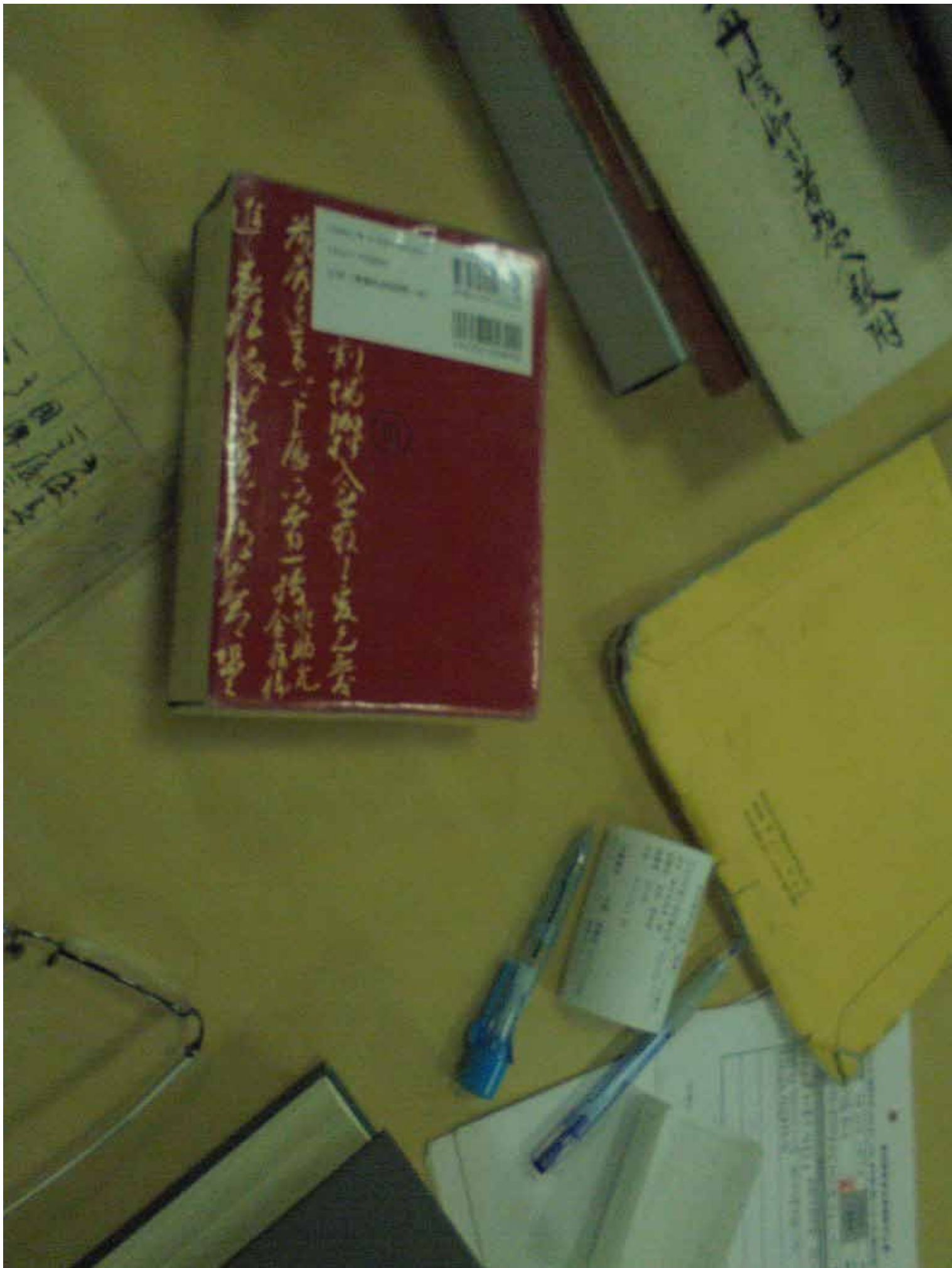
一、... 勘  
一、... 勘  
一、... 勘  
一、... 勘  
一、... 勘  
一、... 勘  
一、... 勘

寛文十一年八月廿七

沖ノ下大正ニリ

牛清 収方

長崎縣令内海忠勝殿



浦上村地所一併片始末書

一 和儀明治三年正月同四年八月迄大村後四位和郎

會斗係當時内斗之相勢ノ存在候迄前至事勢跡致

一 明治三年十二月中大村藩廢勢掛公浦上村ノ宗徒當時宗徒家徒

一 明治三年十二月中大村藩廢勢掛公浦上村ノ宗徒

責平ノ土地買戻方入用并衣袋連下之丁儀至方有

一 其後右地所賣之方搭當信貞福田以人年深恍惚

一 浦上村ノ出張之起最急取替也候金貞除分有

一 丁儀五高寅文字并出張先公返布致外候費八圓

一 浦上村ノ出張之起最急取替也候金貞除分有

傳事

一 浦上村ノ出張之起最急取替也候金貞除分有

一 浦上村ノ出張之起最急取替也候金貞除分有

五十二

浦上村地所一併片始末書

一 和儀明治三年一月八日同軍八月迄大村後四位私邸

會斗係當時内斗相勢ノ存在候云迄前之事勢跡段

當時家一 德卜三月迄在勤ノ存在候事

一 明治三年十二月中大村藩廢勢掛公浦上村日入宗從

賣平ノ去也買度方入用片在喪次連下三月丁儀至方有文

加千一時取替儀相談有之候片右金寸相渡候事

一 其後右地所賣方方搦当信貞福田从人年深候事

浦上村口出浪之起最急取替也候金貞除分有

丁儀五両賣入斗出浪先公返布波外候事

候事

一 前文地以金之儀之其後浦上村店屋官原深

連々相代書方賣入之寸高相搦候有之帳



進之諸帳取後後四位之杖橫山雄為極口德心  
方口差至修攝相覺見修事

但取天如年一時取替金之印公家發帳之記或致且出子  
返金附之上八後帳保故不致下无不若凡ノ憤習之法乃在傾

一慶勢掛分相漢之差至修金重員右淨在門之由納  
相成修淨攝八私確下不相覺見修淨共慶勢掛分兼子  
差因之有之居修下想係仕候

一和也今般右淨在門之納金負教兼始未取調子之

版鳴立等屬殿清出張相成致之橫山雄也内田健義

六私共立合之上臣四位和郎内序調子相成修淨共右

果源之書類更之修淨凡全之權在之使修事出之通子

益多之屑汰亦取片竹修長不必竹取散之修儀之有

法修下奉修修事

系源之書類更之法... 惟在使... 出之通... 法... 奉... 修... 事... 一

右之通法... 修... 上

元大村... 四... 門

明... 年... 月... 日

今... 門

長... 縣... 內... 海... 志... 撰... 殿



南上村 一件始末書

私共儀以治甲午八月月 從四尾大村能也

案按相部部在任所

一 前任 内斗 今富田云古内門姊野稀古内門 候

免後古内門所傳書 職務引 德乃付可續

以治六年三月迄在部元死在任所

但私書之給而八事務引引受所後之云々

一 私書引引受所書類中 浦上村地所一件

書類中書有之報之為今取旧記類百石綱

順寫五等書度出 長也後私書引 旧内之

今富田云古内門姊野稀古内門之合之也

旧記類中 古内門書類中 書在

更：曼玉不事，右八部内原纸未取片

之御不心甘取教信儀、可有之与事存

古之、週法及所以上

后四位大村氏家使

明治十一年八月三日

福田佳藏

同

横山雄也

長門縣令内海忠勝殿



明治三十年春大村藩領上村百姓等分持之田畠山林  
 正以山寺可縣下百姓立之 隱賣買致居於後相顯其後同村地係  
 屬宗并付取札相成其地相遠之元未土地他縣 故其賣買部  
 及共村市制之及方之殊異其宗德 賣渡居於己年右異宗  
 徒各藩清其原其退去跡以地相成之旁其依難置道通 以  
 歷不郡治權少參事福田弘人郡治方牛津悅去多 同見習  
 今村依一即差出相成長寄縣官員談判之上六令代價相拂  
 田畠山林共多為受返之手殺相併歸任仕右受返方諸地  
 傳類庶務局 差出并 福田弘人 藩 差出申我右土地受  
 返方一併之及共右三者取討我及方之且殺年相成未及數相買居  
 石申概畧也 併我也

明治三十年八月

大區貳小區大村

58

長崎縣令小海忠晴殿

士族

稻毛 大區

長所變小海患勝殿

長所變小海患勝殿

福因位承

長所變小海患勝殿

因

長所變小海患勝殿

長所變小海患勝殿

明治二十一年春大村藩浦上村百姓等外將之田畠山林

長所變小海患勝殿

田畠山林其後為受返之手殺相候歸依仕右受返方諸地

長所變小海患勝殿

傳各藩所領其退去跡地相成言其依難屋置也

長所變小海患勝殿

今村依一即差出相成長奇縣官員談判之十六代價相押

長所變小海患勝殿

田畠山林其後為受返之手殺相候歸依仕右受返方諸地

長所變小海患勝殿

傳各藩所領其退去跡地相成言其依難屋置也

長所變小海患勝殿

田畠山林其後為受返之手殺相候歸依仕右受返方諸地

長所變小海患勝殿

明治二十一年八月

長所變小海患勝殿

長所變小海患勝殿

長所變小海患勝殿

長所變小海患勝殿

旧大村藩浦上村寄賣地引上予終書

明治三年旧大村藩浦上村、者共旧長寄縣浦上山里ノ  
者共、賣度土地引上ノ、一条御尋問、趣符承仕則左ニ  
申上候

一 元来他藩縣ノ地所互ニ賣買制禁ノ義ハ双方ノ人民ニ  
於テモ相心得居可申ハ勿論ニ候如山里ノ者共、寒賣  
致殊ニ吳宗徒共買請ノ分ハ追々荒地ト相成赴村役ヨリ  
申出候付旧藩ヨリ長寄縣、懸合、上旧藩郡沼小參事  
福田弘人郡沼方牛津悦右工門見習合村伍一郎浦上村  
、出張長寄縣大屬鶴田實其外、談判、如其條引上相  
成候テハ難澁ニ付代價差出吳旨極追々相談有之余儀  
十年情実ニ相聞候付当節限特別、詮議ヲ以テ出金ノ  
事ニ相決申候然ルニ其頃奥羽出軍其他入費多端ノ末

藩金拂扨、折ニ竹握テリ知事内計方、相談ノ上凡  
金千四程一時取替、相并後事

一古密賣、地所ハ夫々申出候、地代價取調金子可相渡  
音双方村方、達相成候如申出方遷延致出張莫ニ際限  
テク隔在處分難相成故尚長寄縣出張、相談、上期  
限相定メ限日ヲ過タル分ハ無代價ニテ引上可申者双  
方人民、出張ヨリ嚴達相成右限日迄不申出分ハ都  
テ其條引上候事

但期限、月日取調候得共書留、書類如何相成候或相合不申浦上村庄屋勤務  
、若取調候廻四町村領、分ハ出張莫ヨリ庄屋、口達ニ付小頭其他召呼相達候得共月

田ハ不相覚旨申出候

一田畠山林古賣方代價見込、竹右、内四知事内計方取

来次第内計方、相納候様为取計其他、田藩負債、田  
相拂或ハ勤勞ニ寄リ給共等ニ致タル分モ有之候事

田八不相寛者申也

田畠山林共賣方代價見込  
ノ竹右ノ内田知事内計方取  
寄金込年ニ充ル天ハ浦上村庄屋ハ賣拂方申竹賣勘出

未次身内計方ハ相納後標為取計其他ハ田藩負債ノ内

相拂或ハ勤勞ニ寄リ給寄等ニ致タル分ニ有之候事

處分濟ノ帳簿ハ旧藩廳ハ取纏有之候得共其頂藩改故

革諸課轉局ノ際如何取計能哉相寛不申候

右ハ數年ニ相成確ト相寛不申候得共記臆ノ候申上意也

明治十一年九月

上野前定



長岑縣令内海忠勝殿

一、古來、賣、地、下、天、中、其、地、代、賣、取、金、多、可、相、通、  
 一、方、及、方、村、方、一、定、期、間、自、知、申、出、方、通、之、段、後、後、後、後、  
 一、限、相、定、の、限、り、過、り、分、の、代、價、二、引、上、可、申、出、  
 一、方、人、民、の、出、張、高、ヨリ、嚴、重、相、成、者、限、日、迄、不、申、出、分、の、  
 一、其、外、引、上、候、事、  
 一、但、期、限、の、日、取、調、自、得、共、言、由、書、類、如、何、相、成、在、或、相、合、不、申、浦、上、村、庄、屋、如、務、  
 一、者、取、調、候、処、而、大、村、領、分、の、出、張、高、ヨリ、庄、屋、口、運、行、小、廻、其、他、召、付、相、違、在、局、共、月、  
 一、田、八、不、相、覚、音、申、出、候、

一、田畠山林共賣方代價見込、竹右、内田知事内計方取  
 替金返年ニ充ル、又、浦上村庄屋、賣拂方申付賣捌出

相、轉、或、ハ、高、勝、ニ、寄、リ、給、與、考、考、ニ、致、シ、ハ、分、上、相、違、在、  
 也、分、濟、ノ、帳、簿、ハ、旧、藩、廢、ハ、取、纏、有、之、在、揚、若、其、限、  
 諸、課、轉、局、ノ、際、如、何、取、計、在、或、相、覚、不、申、候、

旧長壽縣大属奉藏中 明治三年八月浦上村取  
締懸、命ヲ拜シ、其時同懸専任鶴田大属ト共ニ  
取扱タル明治二年十二月旧藩々へ轉謫相成シ浦  
上村異宗徒所有田畑山林地代金ノ儀ハ其時藩縣  
地界取調右所有地ノ内旧大村藩管下ノ地所ハ地  
代金受取同藩へ引渡候儀ニテ其反別金負ノ如  
キハ數年ノ久シキ祀憶不仕候へ共地代金受取  
タル時々會計懸へ預キ置キ皆滿ニ至リ地所金  
員受授ノ書面ヲ交換シ其段上申致シ置尋ヒテ  
刑法懸へ轉シ候儀ニ有之私儀、該事ニ於ルハ  
要スルニ旧大村藩下地所金員交付而已ニシテ其初  
轉謫ニ際シ之レヲ調査スルト最後歸縣ノ上之ヲ結

了セシトハ捲當ノ事ニ無之候間前後ニ從事セシ  
他ノ捲任者ハ御下問相成度尤誤件則涉書類ハ  
異宗徒一件書類ト記銘ノ書函ニ入レ具備相成  
居候儀ト相覺ハ候ニ付御取調相成度ハ一澤ニ  
判然可仕奉存候此段御下問ニ付御答申上段也

明治十一年十月四日

高石紀年

長寄縣令内海忠勝殿

旧長寄縣令内海忠勝殿

弘義

旧長壽縣女属奉藏中 明治三年八月浦上村取  
締懸、命ヲ拜シ當時同懸専任鶴田大属ト共ニ  
取扱タル明治二年十二月旧藩々へ轉謫相成シ浦  
上村異宗徒所有田畑山林地代金ノ儀ハ當時藩縣  
地界取調右所有地ノ内旧大村藩管下ノ地所ハ地  
代金受取同藩へ引渡候儀ニテ其反別金負、如  
キハ數年ノ久シキ記憶不仕候得共地代金受取  
タル時々會計懸へ預ケ置キ皆濟ニ至リ地所金  
負受授ノ書面ヲ交換シ其段上申致シ置尋ヒテ  
刑法懸へ轉シ候儀ニ有之私儀、該事ニ於ルハ  
要スルニ舊大村藩ト地所金負交付而已ニシテ最初  
轉謫ニ際シ之レヲ調査スルト最後歸縣ノ上之ヲ結

了セシトハ擔當ノ事ニ無之候間前後ニ從事セシ  
他ノ擔任者ノ御下問相成度尤該件閱涉書類ハ  
異宗徒一件書類ト記銘ノ書函ニ入レ具備相成  
居候儀ト相覺レ候ニ件御取調相成候ハ一澤テ  
判然可仕奉存候此段御下問ニ件御答申ニ候也

明治十一年十月四日

高石紀年



長岑縣令内海忠勝殿

浦上村四異宗徒地不ノ御下ノ儀ニ始末看

一私儀明治三年十月了 同五年三月ニ浦上村ノ内字西郷四郎有

浦上村四異宗徒地并下儀三自始末局

一私儀明治三年十月三日 同五年二月三日 浦上村人内字西郷領

手代役相勤候事

一明治二年九月 浦上村山里之領百姓去異宗信仰并右藩

護込ノ節警備下シテ 四六村藩士數拾名西郷在處占向三日

詰込相成申候右異宗人數且申吟味ノ次第其他ノ事件支配違

存不申候事

一右山里御異宗徒右藩立退後長身并人民七六村領人氏

田畠山林密賣ノ事件并自然相顯レ 修并早速又藩相勤候

事并他領ニ地所賣買ハ併シモ所禁割ノ儀并右皆密賣ノ

証ニ証人并村役人ノ奥印更ニ在所危候事

一右密賣ノ處分并四六村之藩役人名簿上出渡相成又長身

并右役人名同村出渡并新到ノ上各領方互ニ地所請込相成

候願末方中上ノ奉事候

一 此節四右村藩ヨリ出陣ノ役莫右之通

郡ヨリ少共ノ奉事

郡内役

福田弘人

牛津悦右門

内見習

今村佐一郎

右者備上村向ノ末番且歩序大村郎等歩番

一 歩序郎ヨリ出陣ノ役莫右之通

大島

齋田實

外二三名

姓名存不申

右八浦上村山甲庄屋止宮領式八日勅飲存不申

一 右者明次三年春ヨリ秋ノ懸ノ候様相覺申候

一 右双方所談判ノ變極毎細存不申候得共左ノ部方ノ二輪ノ更々

一 年限至ノ部

一年限在八部

一年滿八部

元後不知部

元後不知部

一 何月何日迄地所買諸店候報申立無之分八双方是

採用不相成引揚、取中節操双方、村方、市布告

及中以便扣受申候

一 右條申設議相中候各四六打領人民早、七條領人民上、下、方

右之地所出役手傳、夕、一、同、取、調、候、儀、有、之、候

一 明治四年地所不候、私、市、願、取、中、逐、之、適、分、包、者、押、之、申、方

移、如、違、四、候、早、三、候、是、多、忙、引、迄、し、明、治、四、年、秋、迄、懸、村、方

候、議、上、行、價、申、控、審、辨、候、操、機、費、申、候

一 右地所、市、押、下、伏、者、諸、候、操、機、費、之、確、分、不、相、合、也、明、治、四、年、候

九月廿三日丁戌四十五百四拾三廿六百廿九又四拾年一公一私郎  
内計ノ申ス存ニテ其時係リ嬉野希石ノ上ノ上ノ上ノ修ノ事  
古者存ハ 等々 之ノ確ニ相方申知、寛正六ノ申仕候也

茅根矣迄甲乙迄是殿村七番地

明治五年八月

士後

以本原澤石ノ門



長崎縣權令内海忠勝殿

九月廿二日丁錢四千五百四拾三員六角四分又四分并知事一員、私邸  
内計下申又存七員其時係う嬉野席右一門上納仁修十員  
右者存ハ 等々 之く確々相方不申私、寛治六年申仕候也  
茅取矣迄甲申迄思殿并七番地

明治五年八月

士發

以原 淳石 門



長崎縣權令内海忠務殿

浦上村  
地所 一件 开始未書

私法明治三年より向只年四月迄大村旧知  
事 大村純熙私印多計係計下内 同勤羅在仍  
去後系、事務方内此里五年四月迄勤續羅在仍

右新法中明治三年庚午年三月中浦上村也  
一件 存私印より下段此方貴文大村廣唐契  
課上 一財田迄此迄成其心私上段了只内其書  
果了 持抄 〇〇〇

石田迄全、内身向貴文又計 11月中迄却

六十五

金比浦上村  
金比浦上村

金比浦上村  
金比浦上村

金比浦上村  
金比浦上村

金比浦上村  
金比浦上村

金比浦上村  
金比浦上村

金比浦上村  
金比浦上村

金比浦上村  
金比浦上村



終少者乃取言大村修德私郊内四記五五洞湖湖媽

且孝之厚厥出活或成也投榜山雄左之亦云  
云回内計今乃角兵若人私共被者之厚則于即取  
謂或成也知右此價一併一也納性為一更之也見之不  
申一似右之家投榜山雄左也丁字甲去通古私郊  
内首或石片付于在隱隱隱于遂探于五沃之可有  
之我之幸存欣

石之通 亦通一二一上似也

弟十六天區三十區三重村士族

68

以修年八月

姊所舞左之

毛岳縣令山海忠梅致

浦上村史所一竹月如未書

和儀明治二年十一月廿四日一月迄大村後四位私外會計係

斗上之内相勢之在候志後前之事勢跡當西家數引斗上之内

四年二月迄在勤之在候事

明治三年十二月中大村藩慶勢掛分浦上村是宗徒上賣

布之喪買度方角用之在候地代金下之丁淺之方賣又斗上之内

一時取替之儀相渡有之候月右金付相渡候事

其後右喪所賣之分方權守官員福田弘人牛津渡渡門

浦上村口出張之起最為一取替也候金賣人除分方

赴之丁儀也其賣又斗出張先分返中該等所賣是法也

修書

一 為又地代金之儀之甚後浦上村店屋

連之相約事有之文迄高相搦修書

二十五

退之諸侯不徒道四任家與橫山雄

方上美及全修極相善九修事

但布交之謂一明死甘金之類必受貧人家 兆者

區金附之上 該張保及不皮少之在若以之慣習 臣身修

度勢卦 公相以以善美全修金貧之在澤 卷之 公直納捐

澤也 八私確卜不相費 修濟其度勢卦 公美之善及因之與及

有 居修下想修仕修

抗也 今般右澤卷之 公納金有教 弟未取調子

阻鳴其等為殿清出殿之相成致 植山雄在為福田德義

亦私共之文后之上臣四位私外內清調子之相成修濟共右

亦係之善類更之 修濟其全之權在之德為車也之通了

亦係之善類更之 修濟其全之權在之德為車也之通了

退之謂陳下不德... 德山雄

方上羊及金... 德山雄

但布文... 德山雄

廣勢卦... 德山雄

有... 德山雄

我... 德山雄

... 德山雄

... 德山雄

... 德山雄

... 德山雄

... 德山雄

抑忘今般右海在焉乃納金育教始未承德之  
阻嶋其等為嚴清中殿之相成強之權在為福田德  
亦私共之文合之上臣四位私邸內清調子之相成修潤共十  
弄係其書類更之官所凡今之權者乃德為申出之通之  
若為所肩似亦不在此月所通之不心月反散之儀之有臣所

右之通法所修之上

元大村設四位四斗方

明治十一年八月五日

今留其在門



長山奇勝在內海志携殿

明治三十年春大村藩滿洲村百姓共可持之田知山林  
長崎縣下百姓共隱責負致居於少相顯其故同村  
長崎又有一届名其付取札相與其交相違違多之元來  
古長崎縣之隱責負却其故者禁割之美有之殊  
異字後上責負隱居其分已年右異宗後各藩清預  
其退去跡荒荒長相以旁其低難差置且越以之藩  
廳之郡治權少矣事福田弘人郡治方平津悅意  
同是習自今村佐良差出相以長崎縣官負談判  
之上吏之代價相補田細山林共總之受返之多數相所  
歸故任右受返之方諸帳簿類廢務局之差出上  
福田弘人より藩領上差出申出右古長及返之  
之美有右三名可計其美有之且數年相違違多  
相違違居下片概田上申任其也

六十七

69

明治十年八月

力夫区三區大村

士族

稻名惣左衛門

長崎縣之内海忠晴殿

南上村  
地所 一件始末書

一 和書儀如治口年八月了從少位大村能想  
家杖相勤ア在在作

一 前後 内斗 今富云右邊門嬉野拜右邊門少兒藏

相成似身書 殘務引 継方之付 亦續 治口

六年三月迄在勤ア在在作

但和書ニ於テハ事務引受候儀ニ可也

一 和書引受候書類中 浦上村地所一件

書類ニ於テハ之類ニ与ルニ取旧書類ノ

為不取用 輕鴻 五等書馬取古少儀 亦成

和書類

旧内斗今富云右邊門嬉野拜右邊門

今之以上 郷内以和類不取用此亦成少交

地籍簿 一件始末書

一 松書儀照治四年八月月了從四位大村能熊

家杖相勤ア格在任

一 前役 内斗云 今富田志門嬉野拜右馬門少兒藏

相成仍身書 殘務引進方付市續由信

六年三月迄在勤ア格在任

但松書ニ於テハ事勢引受候儀ニ及ラズ

一 松書引受候書類中浦上村地所一件

書類ニ及ラズ之類ニ及ラズ候旧記書類

為不調帳簿五等馬奴由少儀 由成

松書 由内斗今富田志門嬉野拜右馬門

由成 由内斗今富田志門嬉野拜右馬門

左圖係之書類更見其多事似古  
部内屑紙未取片付之初不心付取教  
征儀之可有之方在存紙

右之通防在候以上

昭和五年八月五日

福田健一

横山雄七馬

長山寺新合内海志巻後



一ノ...

寸楮ヲ以テハ別紙ニ書クヨリ  
お尋ねと所為共々奉告申上  
之ノ又日使分方々ノ扱  
方材多し此ノ五便方  
申上之

ハ日之々

分方扱上

江島...

浦上村七地一併に甘味守向次中たはり  
 明治三十九年十一月廿六日大村藩ヨリ是等難  
 對し土地清産しノ際お廢ら該地  
 今も向ト涉存片ハ別去同ノ事  
 永百文ハ抄文ハ三三三三同ノ事  
 何千何百文ト涉存片ハ別去同ノ事  
 喜中村藩通同ヲ以テ  
 浦上

明治三十九年九月二日午後  
 浦上

五等

浦上村 地所 一件 自始末書

私儀以治元年八月廿三日大村藩御方相勤

羅在候処 以治二年浦上村畧宗徒共 長味縣 支所 同村

大村藩百姓共ヨリ 地所買合候始末露顯候

候如右ハ他縣下 地所土賣買不相成到規 在 地所

長味縣下被到ノ上買戻候始末九ノ申上候

以治庚午三年 旧大村藩領浦上村土地ノ内所ノ地

相成候取取候如以治二年ノ冬轉任被一候長味

乃知宗徒共ヨリ下民共ヨリ 林奉割干候之 德賣被一居候

七十一



同徒若違去後全ク其地相成候趣同村之儀  
官事深志門ノ申出候故右為取調直ニ申候處  
相違等々之無程神治ノ奉事福因迄人共外共連ニ  
出張書成一同浦上之儀申候  
申候度ノ相詰申候

右之地儀法ヲ犯シ隱賣之儀ニ付實ハ引上ニ成  
了相成処同所山ノ屋ニ於テ長山亭ノ大馬ノ馬  
實共外限ノ會儀之上非常ノ一所置テ以終ニハ  
金子拂込請返シ候候相極候事

同年三月九日長山亭大奉事鶴岡大馬山屋ニ

於今月議之。申來福同弘人等私令村作一節。皆係  
海方門之移也。出此受返之。見返書。其後如候事。

附 楠幸少一節。外用。為出。海方之。居一日。人。房。議。其。後。如。候。事。

二年限。無年限。或之法。不。分。之。所。議。書。亦。部。類。方。之。故。  
雙方見返書。居出。道。候。如。縣。知。事。大。各。事。楠。幸。少。一。節。  
於判。上。受。返。之。之。代。價。交。極。相。成。候。事。

主代價山。里。於。之。居。居。候。事。源。在。門。之。以。連。日。之。相。渡。之。  
都合。并。海。上。之。證。看。受。返。之。雙方。小。若。証。書。代。價。付。之。  
帳。面。之。以。之。九。ノ。人。員。之。受。取。渡。之。相。渡。之。月。初。旬。比。  
浦。上。村。引。押。候。事。

鶴田大属  
高石小属

種田連平  
中田惣十郎  
瀬戸口新平

土地代價見當ニ凡壹萬丹文程ノ藩蔵ノ受取  
地所受返ニ候處共、除金有之候間返納致シ  
候様相世見不在候

明治三年土月中旬廣官相成候得共沙汰ニ候  
土地受返ニ相附迄浦上村ニ相付候事

了取戻ニ候地所譯文類ハ上世官屋官事譯右門  
相付直付見之ニ付所

其後三年二月廿一日右地所買屋地悉皆用海ノ上福田  
弘人以下私未浦上村引押候事

右孫長持縣受取候所代價付受取帳書外

右一件ニ關係之書書類一摺持歸候分私ハ在云札之而

出頭不相成古福田以人書ハ庶務局引延取

候事、相像不在候

右之通、何間受取候所代價付受取帳書外

不在在何

右八層留等、其之最早教之年、相成委候不相分

ハ札憶ニ候中上候也

明正十年八月廿七日

才士大區三小區弟賴村

牛津悅右門



長壽縣令內海忠勝殿

浦上村異字の徒一色  
素記にタニ白木制丸ノ竹相ニ  
納レタル該書者親

右目下必西女之事出十及決処平右  
判別可ふ及決ニ付成了素到とふ及決  
候也成すは其趣此候印成  
示あしとと成決也

立月十九日 第一課



76

谷課

却也



本之原萬務皆一之流之者一原之

油成可也

油生之好也此也

和之

第五課

諸印

諺曰四海無疆

今也

諺曰守山之原必有大之

任之國乃

書

奉命...

第五課

謹此... 奉命... 奉命... 奉命...

頂件ハ守山... 奉命... 奉命... 奉命... 奉命...

治四月十二日受... 四月十五日... 四月十六日行...

主任...

委任物

...

多... 任... 確... 備... 施...

十二年 月 日 決 見 月 十六 日 行 主 任...

委任物 彦子好輝

西... 經...

能成二万...

只... 西... 福...

子... 統... 福...

古... 國... 福...

信... 下... 福...

及... 店... 出...

其... 同...

後... 乃...

十七

七

長崎縣

任上國乃依此下破之... 任上國乃依此下破之... 任上國乃依此下破之...

十三年 月 日 决見 月十六日 行

委任物

所子好

西後松野... 西後松野...

能成六万... 能成六万...

只部山... 只部山...

子月... 子月...

古... 古...

信... 信...

及... 及...

後... 後...

二十九

七

長 奇

半  
才  
好  
品  
之  
能  
之  
好  
力  
福

士  
山

西  
故  
行  
類  
也  
如  
之  
建  
三  
方  
友

傳  
聖

いふ多し  
しあふ  
出さふ  
乃乃  
ふし

八民紀解意由一割申

高野山里中第西田元道公家

解意由云其件取油多毎月

元年中月己共の事信之

高野山新地同の年中二月

海をたし有る者杖法味の榮位

所下任の事其の事大なるに及

其件解意由云其の事自由

其の事解意由云其の事自由

其の事解意由云其の事自由

其の事解意由云其の事自由

其の事解意由云其の事自由

七十  
西  
是  
年  
万  
三  
十



長生堂粉入海月糖煎

五御本君

御白書

西役料郡浦上村守

千九拾番比目取

西田克送

一私任花明治七年四月、為者、如御官林  
物木才ん、任家郎建竹染、下御、落才ん  
御有任君、在、知、止、及、不、傳、令、御、解  
家、江、新、規、印、男、才ん、建、竹、染、江、傳、比、目、取、白  
申、上、一、取、也

右

明治十二年三月十日

西田克送

同郡日村同部之長

田中元次郎



長安縣令内海之賜殿

前書之通之由中終之迄送之送也

西法新部長カニ送之送也



明治六月二日受の月七廻議

明治六月二日受の月 子題 録  
三年 月 日 決六月六日行

主任 物島四喜蔵

委任物

庶務課

庶務課子務課

貴部南上村山田前川部三郎ノ旨ノ成ノ通  
以テルル如ク貴部事務所持地処分一併ハ進取  
支因左ノ旨ノ旨先ヨリノ出給卜同ノ部務  
ニ付申書ノ復毛 先給内談ノ通吉村美濃町  
ノ及別ホ係記ノ外一因建ノ事務所及ノ出  
給申書ノ物務課至仍于一五ノ区部及ノ旨  
也

三年了

物島四喜蔵

十八

七十

上 行 係

Handwritten text on a red label at the top right corner.

長山集

西海村即所

下

直子山守十右左衛門捕正村長宗在河

司下 四層屋使の地所引渡しせん者元 於此所為河上守

あり 於此所 本宅下十八日 河上守宗在河

あり 於此所 河上守宗在河

三年 月 日 決 月 日 行 主任 畑島 之 長 局

委任物

庶務課

庶務課 力加 控 以 之

考部 田中 方 十 丑 大 邑 浦 上 村 墨 字 宗 法 一 件 廿 四 大 村 後

ヨリ 拂下 四 後 使 之 為 地 所 以 後 之 者 并 之 後 考 之 為 之 也 之 九 十 者 亦 於 地 而 之 池 後

邊 段 昭 島 西 東 岸 之 又 之 之 亦 送 之 東 字 之 之 九 十 者

其 考 之 之 之 以 及 後 保 之 之 何 亦 之 之 亦 大 之 之

田 之 之 之 之 之 後 保 之 之 亦 之 之 之 之 之 之

亦 之 之 之 之 之 亦 之 之 之 之 之 之 之 之 之 之

亦 之 之 之 之 之 亦 之 之 之 之 之 之 之 之 之 之

三年 下 之

長 崎 縣 庶 務 課

七十九 長 崎 縣

十九 年 下 之

西海神御長

福田の茶の取

此の村の茶の取は十の外の茶名ありて是れも人新  
書改百ノ後より此の文の字ありて一と下附式系  
白をまてて油物ありて科りて之を産し上りて西  
也多の茶の取は中判也

西海村の巻

稲田の巻

此より村裏内は十外ある事名曰り是も又人の  
書改む候より此は又曰官より一と下附成る  
白く是れは油物あり候り候事候上は此の西  
也多事申知は中判也

明治、月、日受、三月、廿五日、更議  
土年、月、日決、月、六日行

主任、伊藤、長、吉、郎

委任物

庶務課

一、分、四、二、百、八、十、三、号

其、四、区、浦、上、村、田、角、當、院、一、件、竹、田、大、打、為、邊、り

拂下

田、角、使、り、為、地、所、一、後、分、り、者、先、士、族、考、与、り、る、差、之、シ、タ、ル、者、ナ

其、地、所、五、代、ノ、儀

道、州、那、馬、の、由、申、付、可、り

お、座、と、末、為、焼、り、者、所、以、次

云、々、少、儀、候、の、差、之、の、下、り、何、事、申、出、為、之、り、所、州、上

道、角、の、由、申、付、候、事、申、出、為、之、り、所、儀、候、也

光、緒、三、年、三、月、

号、由、那、馬、務、課

田、角、高、島、区、上、角、中、一、

道、角、那、馬、の、由、申、付、候、事、申、出、為、之、り、所、儀、候、也

十九、日、

新、一、系

長沙縣

海西方より候り、次者テ、同人可（定）下、海軍に於て、考へ  
油物等、此れ之を、獲へ上るべき、心、指考、以、取、別、也、  
也



浦上村地所處之儀  
浦上書

私儀

田大村舊權大冬、平牙成、中、向、以、三、年、中、居、  
内浦之村人氏所者、地所、田、地、長、崎、縣、人、氏、  
賣、拂、或、之、管、入、ホ、段、有、儀、追、之、及、其、後、  
之、  
如、未、  
左、  
申、  
之、  
儀、

一、從前舊制、際、心、舊、系、人、氏、  
十九、  
早、  
之、  
地、



知一協識ノ上ニ改定分有奉

一 地所定分 権者更分 郡治権少多奉奉

福田弘人 其郡は方生津悦意門回之智

今村信一 印子有奉

一 若更負浦之 出此者 誇亦大属 鶴田

実号一 談判ノ上 四畑中 林只ま 代價之

之買戻 之約定 有染之 則見 際地所

并代金 受渡帳 所ノ通 取 引 取 之 儀

者之有奉

一 前條ノ年 後 有 得 是 数 年 ノ 如 後 子

件ノ 去 于 亦 有 之 最 前 有 取 ノ 之 任 也

死に青い明瞭に其の意あり且郡の言は  
信ち事つゝ志真不記候多し一曰見之智今  
村伍一ノ中今・神ノ言候事候平一  
程問一候之意可交申和書按別候、通  
所持段之居反別室多不不取分証トス  
一才者ハハ多し有得共其考考ノ為、供  
重受人多也

其上中多也

以修了二六年四月五日

長河今内海立終殿

四大村居權大冬三季

稻田又左馬

門



少備

中波料部 渾上北山三三御 而署名より持者、宛  
委任状並ニ入五馬左ニ

御房丹紙

委任状ノ事

一持者共々般譽年ノ御札ノ場大クハコ以テ西波料部渾  
上ニ奉木ノ田中際ニあり以テ總理代ノ入ニ定メ持者  
共ノ名義コ以テ左ノ権限ノ事ヲ代理ニ付テ奉  
一四方お旧本お代ニ知一 定後与止公和初ノ事  
初ヲ至中事セシム

右總理代ノ委任状ニ付テ仍テ如所

二ノ早

の千五

少治十三年七月五日

長崎縣 西條郡 油屋山室

百六十五

御代

片岡 長三郎 平

御代

竹内 初次郎

御代

西尾 三喜多

御代

深田 守八

御代

森 長和

田中 守之助

若手長

身印

高谷 文四郎 印

平底家伝馬

所

一 此者其別底、通、山、大、好、由、所、而、他、元、長、一、ノ、也、  
世、般、重、う、為、子、以、言、誰、年、ヲ、信、理、る、と、年、と、と、ン、可、  
ノ、身、ヲ、ハ、向、后、何、処、ノ、也、ウ、シ、其、一、切、其、情、ヲ、  
交、る、ウ、リ、多、分、者、也、是、別、底、五、名、ノ、外、左、と、連、  
署、シ、碓、氷、ノ、札、也、ウ、シ、也、

少、以、十、三、年、ノ、チ、リ、ナ、キ、

田、中、宗、子、也、

平六

雲南利源南藥堂  
抄本

片園古左即本

片園子市

片園利三亭

山下房五亭

片園再十一

野口島三即

岩永岩老

永園去松

松市夜造

松田主人

片園初造

園古松老

早七

中野柳

片園 臨事 柳  
 吉川 丈九  
 片園 如十一  
 片園 石匠  
 片園 前之助  
 片園 因 柳事  
 東海 陸造  
 片園 因 柳事  
 原 因 考 柳  
 片園 雅重 三郎  
 毒田 七 事 柳  
 陣 物 吉 柳

片園 柳 一 助  
 片園 吉 柳  
 山本 國 三 郎  
 片園 馬 造  
 片園 三 一 柳  
 片園 三 一 柳  
 片園 三 一 柳  
 吉 柳 德 事 柳  
 吉 柳 德 事 柳  
 吉 柳 德 事 柳  
 吉 柳 德 事 柳  
 吉 柳 德 事 柳  
 吉 柳 德 事 柳

甲 嶺 峯 山  
少 同 山 峯  
嶺 峯 山 峯  
守 山 峯  
峯 同 嶺 峯  
少 同 嶺 峯  
嶺 峯 山 峯  
嶺 峯 山 峯  
嶺 峯 山 峯

峯 川 嶺 峯  
嶺 峯 山 峯  
嶺 峯 山 峯  
嶺 峯 山 峯  
嶺 峯 山 峯  
嶺 峯 山 峯  
嶺 峯 山 峯  
嶺 峯 山 峯  
嶺 峯 山 峯  
嶺 峯 山 峯

寺 野 佛

子 丸

樓 國 初 第 印  
 山 國 第 三 印  
 溪 國 第 四 印  
 西 國 第 五 印  
 畫 國 第 六 印  
 畫 國 第 七 印  
 畫 國 第 八 印  
 畫 國 第 九 印  
 畫 國 第 十 印  
 畫 國 第 十一 印  
 畫 國 第 十二 印  
 畫 國 第 十三 印  
 畫 國 第 十四 印  
 畫 國 第 十五 印  
 畫 國 第 十六 印  
 畫 國 第 十七 印  
 畫 國 第 十八 印  
 畫 國 第 十九 印  
 畫 國 第 二十 印

畫 國 第 二十一 印  
 畫 國 第 二十二 印  
 畫 國 第 二十三 印  
 畫 國 第 二十四 印  
 畫 國 第 二十五 印  
 畫 國 第 二十六 印  
 畫 國 第 二十七 印  
 畫 國 第 二十八 印  
 畫 國 第 二十九 印  
 畫 國 第 三十 印  
 畫 國 第 三十一 印  
 畫 國 第 三十二 印  
 畫 國 第 三十三 印  
 畫 國 第 三十四 印  
 畫 國 第 三十五 印  
 畫 國 第 三十六 印  
 畫 國 第 三十七 印  
 畫 國 第 三十八 印  
 畫 國 第 三十九 印  
 畫 國 第 四十 印

畫 國 第 四十一 印  
 畫 國 第 四十二 印  
 畫 國 第 四十三 印  
 畫 國 第 四十四 印  
 畫 國 第 四十五 印  
 畫 國 第 四十六 印  
 畫 國 第 四十七 印  
 畫 國 第 四十八 印  
 畫 國 第 四十九 印  
 畫 國 第 五十 印

李海一 只敢如此

李海一

李海一 只敢如此  
田二 只敢如此  
田三 只敢如此  
田四 只敢如此  
田五 只敢如此

李海一

李海一 只敢如此  
田二 只敢如此  
田三 只敢如此  
田四 只敢如此  
田五 只敢如此  
田六 只敢如此  
田七 只敢如此  
田八 只敢如此  
田九 只敢如此  
田十 只敢如此

平成十三年八月甲

右伝介

西條村那桐山古堂一本  
千七百四十九号

田中崇孝

高谷文成所蔵也

文成

高谷文成所



号公好字内海志结殿作  
金井傍所殿

九十二

八月七日 受  
十月 日 決

主任 立希属知島厚法院

令



書記官

彦物得



西海村歌浦上村田里字法内  
太十外而解名司り地所下成也務  
し件分後歌之務ノ吏員へ親方  
油垂ノ事件有し其旨以復九多書地  
弟属可方呼出交し其旨以復九多書地  
下製出也其旨也

早

九十三

是 奇 系

八月十日  
日  
决受

主任 市東属畑島區区長

令

書記官

彦物保



西條村取浦止村妻内迄廿廿地小田大村  
着地所 壹壹式價下 後古し 後列成甲  
印し 通 當今 出 款 付 何 易 元 西 東 属 換 当  
一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十 一 十 二 十 三 十 四 十 五 十 六 十 七 十 八 十 九 十 十  
逆 今 稍 即 力 之 暫 取 之 計 也  
旧地所人表トモ数出於今  
トモ数及今十名入ル

早  
全う書出給し長有り

長 及 為 成 乙 印 之 通

九  
十  
也

三  
奇  
系

新出官少中由た出指屋に成り書向也

蘇多千石十四年

書向新し趣同向の成り新書九拾試向  
下度我抄

七年八月十日 長此集記史

第六十八卷  
明治三年八月七日

乾多六下三十二号

五郡内浦上村山尾木林内古十更地ヨリ

地代金二返方程が其付一破第ハ各六

拾ハ多クヨハ度集之元調之義我而昭古等

二付子速お在是共子取神之度集ハ何

三等所中が九月十九日ハ人既并免殺書等

下之後程が其付令及右柳程が之

何等之理由ハお其程穴中が其標

お其程上候併之始末ヨテ悉之速

度集お其程之書面ヨリお其程

是の別至之度集ハ速ニ中が其標お其程

九十五

百六十五

西條村君移戶

於第九百二十二号(内照)等之趣  
其五(五)之  
經書類(五)之  
之(五)者(五)加(五)其(五)進(五)在(五)其(五)系(五)方(五)根  
市(五)可(五)到(五)其(五)牛(五)交(五)牛(五)其(五)下(五)進(五)其(五)也(五)  
十三年八月六日

西條村郡役所

郡役

長崎縣

西條村

市

写

旧大村内所<sub>レ</sub>有地云々一件此<sub>レ</sub>下<sub>レ</sub>書

去月十二日附<sub>レ</sub>以<sub>レ</sub>印<sub>レ</sub>施<sub>レ</sub>多<sub>レ</sub>旧大村<sub>レ</sub>内<sub>レ</sub>民<sub>レ</sub>上<sub>レ</sub>ノ

約定<sub>レ</sub>書<sub>レ</sub>有<sub>レ</sub>多<sub>レ</sub>此<sub>レ</sub>一<sub>レ</sub>書<sub>レ</sub>此<sub>レ</sub>書<sub>レ</sub>有<sub>レ</sub>此<sub>レ</sub>付

迅速<sub>レ</sub>不<sub>レ</sub>口<sub>レ</sub>ヤ<sub>レ</sub>上<sub>レ</sub>伸<sub>レ</sub>多<sub>レ</sub>ん<sub>レ</sub>可<sub>レ</sub>シ<sub>レ</sub>ノ<sub>レ</sub>如<sub>レ</sub>常<sub>レ</sub>上<sub>レ</sub>伸

請<sub>レ</sub>多<sub>レ</sub>此<sub>レ</sub>内<sub>レ</sub>人<sub>レ</sub>若<sub>レ</sub>ノ<sub>レ</sub>使<sub>レ</sub>シ<sub>レ</sub>多<sub>レ</sub>好<sub>レ</sub>書<sub>レ</sub>有<sub>レ</sub>此<sub>レ</sub>

殊<sub>レ</sub>、此<sub>レ</sub>ノ<sub>レ</sub>年<sub>レ</sub>上<sub>レ</sub>伸<sub>レ</sub>請<sub>レ</sub>多<sub>レ</sub>此<sub>レ</sub>地<sub>レ</sub>内<sub>レ</sub>民<sub>レ</sub>上<sub>レ</sub>

於<sub>レ</sub>テ<sub>レ</sub>不<sub>レ</sub>於<sub>レ</sub>在<sub>レ</sub>ノ<sub>レ</sub>簿<sub>レ</sub>且<sub>レ</sub>ノ<sub>レ</sub>心<sub>レ</sub>得<sub>レ</sub>違<sub>レ</sub>ノ<sub>レ</sub>申<sub>レ</sub>柄<sub>レ</sub>未<sub>レ</sub>有<sub>レ</sub>之

此<sub>レ</sub>右<sub>レ</sub>当<sub>レ</sub>ノ<sub>レ</sub>強<sub>レ</sub>、此<sub>レ</sub>内<sub>レ</sub>中<sub>レ</sub>一<sub>レ</sub>有<sub>レ</sub>テ<sub>レ</sub>此<sub>レ</sub>民<sub>レ</sub>此<sub>レ</sub>書<sub>レ</sub>

此<sub>レ</sub>書<sub>レ</sub>、今<sub>レ</sub>之<sub>レ</sub>此<sub>レ</sub>方<sub>レ</sub>此<sub>レ</sub>ノ<sub>レ</sub>年<sub>レ</sub>可<sub>レ</sub>申<sub>レ</sub>此<sub>レ</sub>年<sub>レ</sub>上<sub>レ</sub>伸

多<sub>レ</sub>此<sub>レ</sub>書<sub>レ</sub>此<sub>レ</sub>一切<sub>レ</sub>下<sub>レ</sub>先<sub>レ</sub>此<sub>レ</sub>書<sub>レ</sub>下<sub>レ</sub>此<sub>レ</sub>書<sub>レ</sub>同<sub>レ</sub>此

九十五

野矢考也

長山集

西條移取浦戶村山一木本

千二百四十七卷地

口部三九

田中蒙書

右村平安

高岩文法

安海内海右集決理

金井俊平

茶書(色)能也(百)進進化(一)也

所以(幸)平(八)月(之)名(西)海(形)部(号)方(白)

昔年為丙午年諸決議  
全井後評改


美善之色難也百進造化一也  
此以筆八日之西涉形即景也

書記家永正周

明治七年七月卅日 受  
三年 月 日 決

主任 畑島吉太郎

福安 

新物屋 

所ノ神ノ由ル九二二

遇海東乃山無屋至乙浦上村  
四号字流 抄傳名古村心流人下  
川左ノ辰 既四方利着清由七飛  
貸与借者中書長ノ部ノ定ノ才名多世  
町内方八 神記上ノ最元 入用ノ  
件付送々 抄傳心書し 聖分取

九十八

長崎縣

乃之候候也

但言射心候事に別由心算心方ニサレ延ハ

候事ニテ心算心方別由

十三年中ノ<sup>北</sup>物籠考候事

西波科取区候

其方

治七月十五日  
受  
日  
决

主任

畑島六郎

彦野保

小倉

印

此ノ如クハ六拾八日

其款浦上村妻内左千其他各地代  
予之ノ後ノ新書字ノ其如ク乾方  
七千九号ヲ以テ進ノ台ハ  
一通ノ付之色ハ各列書一通  
渡出ル出ル事ハ且ノ左ノ  
儀旧大村藩内人民ヲ土地  
節ノ約定書ハ其ノ如ク

九十九

長奇系

少納書上達、右分し、少中出、少中取、交、む、其、此、  
書、新、所、指、元、分、八、本、書、ノ、儘、出、指、心、少、回、空、  
有、し、公、出、段、及、無、厚、其、也、

但、右、共、地、代、色、下、後、也、乳、ノ、件、八、段、ノ、處、延、ノ、  
其、付、建、之、少、如、分、ノ、筆、付、付、也、方、ノ、執、ハ、可、求、  
早、急、ノ、少、納、書、也、本、事、列、也、

十三日七月  
物、能、能、能、能、能、

西、海、移、取、何、所、  
少、中、

第七十九別  
明治二十九年九月二日受

八才なるハ亦ニリ

右名妻中ノ之高子孫自地所ニ  
出孰而於案始之月教之右之者  
存標并記人ノ限在成之ハ其之  
方初法古ノ以之出於所道ニ  
以潤其ノ交別記之通河ノ外  
七道は其也

備上北山宮兵部之

明治二十九年八月廿九

高田谷文部



102

長崎縣令田海吉物殿受領

女子書記官重井俊行殿

以前書面之通致  
出候間進達仕儀也  
明治三年八月廿百  
西被料郡長介

書記官重井正紀



記

浦上右衛門

之門右衛門

吉次事有以甲院隈北海之令也

吉次

院之令也

多十人

信十元海之令也

右十人

信八元海之令也山川島千出部令

信十人

院之令也

忠右衛門

九市一元海之令也

九市一元

友元之海之令也

吉口

院之令也

院之令也

る

伊予の海に色を帯びて出帆せし

伊予の海に色を帯びて出帆せし

伊予の海に色を帯びて出帆せし

伊予の海

伊予の海に色を帯びて出帆せし

伊予の海に色を帯びて出帆せし

伊予の海に色を帯びて出帆せし

伊予の海に色を帯びて出帆せし

伊予の海

伊予の海

ソ

伊予の海

伊予の海

伊予の海

伊予の海

伊予の海

伊予の海

伊予の海

伊予の海

治七月三日 受  
十月 日 决

主任

畑島孝康

彦野徳



三十一番 一五十九号

浦上村の島守院内お記名新し

者共の家の(乾)方四百七十九号品

の長子(重)子(北)子(知)子(七)子(人

百十の石(内)何(七)お(七)七(十)ヤ

己(七)新(洲)年(七)子(七)子(七)子(七)子(七)

の(七)子(七)子(七)子(七)子(七)子(七)子(七)

仁(七)子(七)子(七)子(七)子(七)子(七)子(七)

現る隠形或は七世年々致ノ山歌の書  
おまうそ出形く其言各の目取と下  
注の珍切本少到

十三平七

十三

あはれあはれ

西世村弘河所

浦上村家元元

考次

夏十

九十

任八

有本行

日打也第2日

105

日打中一建日  
物

物  
物  
物  
物  
物  
物  
物  
物

三夜吹：母心也。振殿

西。微。好。一。能。苦。能。能。

惟。中。一。二。年。月。日。也。  
 子。也。也。也。也。也。也。也。也。  
 之。也。也。也。也。也。也。也。也。  
 所。也。也。也。也。也。也。也。也。  
 了。也。也。也。也。也。也。也。也。  
 固。也。也。也。也。也。也。也。也。  
 子。也。也。也。也。也。也。也。也。  
 也。也。也。也。也。也。也。也。也。

真。不。在。此。也。

第一四十五行  
 第二十六行

未  
 家  
 入  
 就

第一三四 五六  
明正二年二月廿二日受



有乾  
元八四  
百七  
九九  
九  
九  
九

乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...  
乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...  
乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...  
乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...  
乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...  
乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...  
乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...  
乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...  
乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...  
乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...  
乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...  
乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...

乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...

西... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...



乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...  
乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...  
乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...  
乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...  
乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...  
乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...

乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...

學不來信者其德也  
十有六於於干於中其信之也  
德也三經行也其於學也  
西也其德也其於學也

方... 湖... 都... 油... 一... 一... 一...

... 之... 國... 湖... 湖... 湖... 湖... 湖...

... 之... 湖... 湖... 湖... 湖... 湖... 湖...

... 之... 湖... 湖... 湖... 湖... 湖... 湖...

... 之... 湖... 湖... 湖... 湖... 湖... 湖...

... 之... 湖... 湖... 湖... 湖... 湖... 湖...

... 之... 湖... 湖... 湖... 湖... 湖... 湖...

... 湖... 湖... 湖... 湖... 湖... 湖... 湖...

寫字時之氣  
不流中  
由

子  
再出  
夜

地  
下

其  
勢

善  
意

今與張海子書中言其  
言其可與也蓋其於世成  
固如斯也其在海內亦  
可與也其在世亦如  
之子其於世也其如  
可與也其在世亦如  
之子其於世也其如  
可與也其在世亦如  
之子其於世也其如

百  
年  
大  
事  
記

此乃... 此乃... 此乃... 此乃... 此乃...  
 此乃... 此乃... 此乃... 此乃... 此乃...  
 此乃... 此乃... 此乃... 此乃... 此乃...  
 此乃... 此乃... 此乃... 此乃... 此乃...  
 此乃... 此乃... 此乃... 此乃... 此乃...  
 此乃... 此乃... 此乃... 此乃... 此乃...  
 此乃... 此乃... 此乃... 此乃... 此乃...  
 此乃... 此乃... 此乃... 此乃... 此乃...  
 此乃... 此乃... 此乃... 此乃... 此乃...

Handwritten Chinese text in cursive script (caoshu), written vertically on a page. The characters are highly stylized and difficult to decipher precisely, but appear to be a continuous passage of text. The writing is dense and fills most of the page.

既後出之液也者之其  
後於其出之液也者之其  
其出於其出之液也者之其  
其出於其出之液也者之其  
其出於其出之液也者之其  
其出於其出之液也者之其  
其出於其出之液也者之其

其出於其出之液也者之其  
其出於其出之液也者之其  
其出於其出之液也者之其  
其出於其出之液也者之其  
其出於其出之液也者之其  
其出於其出之液也者之其  
其出於其出之液也者之其



心水空山... 出

四身亦如... 柳

部事... 文

每... 文

子... 文

書... 文

之... 文

昔... 文

為... 文

事... 文

長... 文

三才之理 若此其理  
地者 天地之理也  
海者 天地之理也

三才之理 若此其理  
地者 天地之理也  
海者 天地之理也

四者之理 若此其理  
地者 天地之理也  
海者 天地之理也

中者之理 若此其理  
地者 天地之理也  
海者 天地之理也

一、相... 事... 何... 出...  
 二、... 成... 下... 皆... 皆...  
 三、... 地... 故... 不... 不...  
 四、... 地... 故... 不... 不...  
 五、... 地... 故... 不... 不...  
 六、... 地... 故... 不... 不...  
 七、... 地... 故... 不... 不...  
 八、... 地... 故... 不... 不...  
 九、... 地... 故... 不... 不...  
 十、... 地... 故... 不... 不...  
 十一、... 地... 故... 不... 不...  
 十二、... 地... 故... 不... 不...  
 十三、... 地... 故... 不... 不...  
 十四、... 地... 故... 不... 不...  
 十五、... 地... 故... 不... 不...  
 十六、... 地... 故... 不... 不...  
 十七、... 地... 故... 不... 不...  
 十八、... 地... 故... 不... 不...  
 十九、... 地... 故... 不... 不...  
 二十、... 地... 故... 不... 不...

失其子也。夫。安求其。西。三。行。
 書出。其。所。行。也。若。工。
 銘。之。時。出。之。必。絕。矣。一。為。如。
 故。分。可。申。其。情。一。無。就。于。
 知。事。嚴。而。皮。一。三。桐。物。與。故。
 一。私。部。者。考。其。典。
 一。不。得。一。治。之。以。者。一。吏。之。行。
 一。相。成。以。一。事。屬。然。一。事。一。行。
 一。知。事。事。面。皮。一。桐。物。與。無。之。
 一。曰。士。地。也。一。一。一。不。可。一。
 一。考。其。典。一。一。一。不。可。一。
 一。其。子。也。一。一。一。不。可。一。
 一。失。其。子。也。一。一。一。不。可。一。



曰櫛  
 者如桐，如六双，送，送，送  
 第，付，外，外，外，外，外，外，外，外  
 穗，道，榭，榭，榭，榭，榭，榭，榭，榭  
 法，把，把，把，把，把，把，把，把，把，把  
 前，後，善，善，善，善，善，善，善，善，善，善  
 法，法，法，法，法，法，法，法，法，法  
 之，之，之，之，之，之，之，之，之，之  
 先，自，自，自，自，自，自，自，自，自，自  
 也，外，外，外，外，外，外，外，外，外，外  
 櫛，櫛，櫛，櫛，櫛，櫛，櫛，櫛，櫛，櫛  
 其，其，其，其，其，其，其，其，其，其  
 也，也，也，也，也，也，也，也，也，也  
 也，也，也，也，也，也，也，也，也，也，也

考  
廿六  
廿七  
廿八  
廿九  
三十  
三十一  
三十二  
三十三  
三十四  
三十五  
三十六  
三十七  
三十八  
三十九  
四十  
四十一  
四十二  
四十三  
四十四  
四十五  
四十六  
四十七  
四十八  
四十九  
五十  
五十一  
五十二  
五十三  
五十四  
五十五  
五十六  
五十七  
五十八  
五十九  
六十  
六十一  
六十二  
六十三  
六十四  
六十五  
六十六  
六十七  
六十八  
六十九  
七十  
七十一  
七十二  
七十三  
七十四  
七十五  
七十六  
七十七  
七十八  
七十九  
八十  
八十一  
八十二  
八十三  
八十四  
八十五  
八十六  
八十七  
八十八  
八十九  
九十  
九十一  
九十二  
九十三  
九十四  
九十五  
九十六  
九十七  
九十八  
九十九  
一百

三行女福標第...  
 大為所...  
 福...  
 曰...  
 中...  
 或...  
 地...  
 少...  
 樂...

丙辰三亥年

長崎縣地文通方出張中手控書

三村

三村

107

治 九月 廿七日 受  
年 月 日 决

主任

畑島 玄形 属



課長



彦路保



所、知、四、百、四、十、一、年

西、海、村、款、浦、上、村、四、畝、字、家、茂、地、所、  
下、海、方、後、々、取、出、給、付、出、如、由、古、木、  
村、九、畝、可、同、向、由、由、保、元、上、務、  
見、込、由、由、下、同、付、由、成、道、畑、島、上、八、  
由、由、可、  
実、陳、未、夫、  
指、合、海、  
三、六

二十四号

長崎系

美濃の歌

長山果

一倉矣。妙方、は是向出所或ノ通、方、  
此等ノ古古出所也。妙方、出所、系、  
借、用、ノ、二、方、字、安、定、同、係、全、残、出、納、帳、一、冊、在、  
區、部、出、所、申、述、也。

仁右帳末、附、  
拂代七、  
中、出、ノ、言、次、以、下、十、  
<sub>ハ、上、出、所、字、ハ、  
<sub>ハ、上、出、所、字、ハ、  
<sub>ハ、上、出、所、字、ハ、</sub></sub></sub>

若、  
<sub>三、十、日</sub>  
出、納、簿、  
<sub>三、十、日</sub>

治九月廿八日 受  
 年月日 决

主任 王其属 初编区送江

令

书记官

唐炳保

出纳保

上旬为市下氛，与... 四号字笔... 内地线重  
 七日... 一顶... 按... 左... 右... 向... 也

位其他... 为... 丹... 有... 之... 介... 号... 外... 子... 八... 出... 附... 象...  
 通出... 他... 保... 于... 多... 所... 出... 他... 子... 所

成知七五九九六二

西海村歌

二十五

曼奇系

月廿八日 受  
月 日 决

主任 王美属 烟台地区

令

书记 官

唐炳保

出 纳 保

上句为市下款，与... 四号字... 内地...  
七因... 一顶... 接... 左... 右... 向... 也

似其他... 为... 丹... 有... 之... 今... 多... 似... 子... 以... 出... 附... 义...  
通... 出... 纳... 保... 于... 多... 西... 烟... 之... 籍... 以... 建... 子... 於...

一... 成... 知... 七... 九... 九... 六... 二...

西... 保... 粹... 款

其取浦上村史家跡跡丸ノ者共四方村落後  
ノ氏ノ了費入ノ去地以以三平中委成ニ代是  
別記ノ趣有之我外右人負其形而在中ニ付者  
初ノ録置置我我ニ付之録交付之系各ノ自高懸  
海心法名各各方出の得く可出也各各之事  
十三年九月四 長官官出在

浦上村家跡丸

元皇宮院

古田傳孫浦上主四五郎

視戸主

吉次

夏十

方時之尸主克三印

口之尸主山川危十

現尸主

亡尸主國三印

亡尸主市拓

現尸主設所安花十

亡尸主市右印

亡尸主浦川高印

現尸主初登門中安遠印

現尸主

口申印

危十

位八

忠在登門

九印一

吉氣

茂助

印之助

印在印

初在登門

物印十

日本原野

五册集

之戸主久作

現戸主

之戸主山下三ツ

之戸主山石西三ツ

末茂

末茂

次八

末茂

亦二印 甲乙丙ノ階級あり

うへんの三枚

畑 或 畝

貢小麦 壹石 五斗

代銭 壹両 七匁 三匁

青主家地

白主家地

喜作 茂那

佐古の冠 拾枚

畑 五畝

土主家地

貢 米 壹石 五斗

小麦 三石 二匁 五匁

代銭 七匁 三匁 五匁

白主家地

白主家地

白主家地

善八

市法

代し物

三九

長崎系

とうがー田島千枝

考と家理

畑三反三畝

成右衛門

負米五斗五升

伐伐拾七升九斗拾文

實色布系

末之龍  
原八

姉の泣くふ廿七枚

考と家理

十三

畑八畝

負米五斗

考と家理

伐伐五斗八斗拾文

考

杉谷七枚

考と家理

烟三款

夏古夏古外

雪とあたる

きあ

代改き八八改文

位八

丸尾 十七款

雪とあたる

烟五款

夏古夏古外

雪とあたる

款九款

代改三五七五七文

夏古外

西ノ平 七款

雪とあたる

烟五款

夏古外

夏古外

五羊三糸

寅と亥融々

代残四角三糸七又

九十

二五田三糸

こつころ川内三糸

寅と卯々

烟或或

晴氣

五少麦七糸八糸

寅と卯融々

代残を九糸七糸八糸

まの下の三糸

寅と卯々

物或或

傳氣

五少麦三糸

寅と卯の々

二五田三糸

今知五經所有地神者五十七卷目第二點  
夫有方

代錢三毫以爲記也

此二二二二二

黃と西々

相と取

萬年一

大七二二二

雲と取の々

代錢三毫以爲記也

此二二二二

此二二二二

雲と取

相と取

傳義

大七二二二

雲と取の々

代錢三毫以爲記也

此二二二二

三十一

此二二二二

113

今

合外地所西后十五至目为三  
三  
去音之九力

七のり度多ね

七のりあひ

長 世 果

糊 田 敷

唐 氏

五のりま三升

五のりあひ

代 城 三 五 三 五 三 五 三 五

一 五 三 五

五のりま三升

五のりあひ

糊 三 五

末 五

五のりま三升

五のりあひ

代 城 三 五 三 五 三 五

一 五 三 五  
（五のり田敷）

かひのりま三升

かひのりあひ

烟七畝

杉七畝

五斗麦三斗新石

空之中石

代州三斗七石八石七文

廿千

毒水 三石

毒とぬり

烟 七畝

為 七畝

五斗米三斗

代州以力、方石以石

之歸西田天三石

山

五斗三石四斗

114

山七畝

五斗新石

五斗

長崎系

卷出部書內所有地圖及井口表

174

三定

00

高麗の事

長 田 果

伐取於其又云乃云云  
末 吉

仁源翁之已平均也於七

今八於之也云乃七於云

縣廳保存書類

但旧異宗徳傳分

一 異宗一件内仕置當り見込書

尙丹

一 御印満田

尙丹

一 藩縣田畑讓渡直段平均書

尙丹

一 肥前國浦上村百姓共異宗信仰致候  
一件ニ付申上候書付

尙丹

一 土地方件 藩縣見込書

尙丹

一 浦上村山里異宗徒田畑使地作徳取調帳

尙丹

一 異宗徒田畑高持共一預ヶ請書

尙丹

一 請返山林引請帳

尙丹

一 借用金錢川当田畑山林請帳

尙丹

万十一之

長

奇

縣

一請込年限中ノ部

合於丹

尙丹

計筭書

第三印甲印帳簿合金

一金五百三拾五圓三拾九錢五厘

全 乙印前全斷

一金貳百五拾壹圓四錢五厘八毛

全 丙印前全斷

一金五拾四圓七錢九錢貳厘

合金八百三拾七圓貳拾三錢貳厘八毛

是レハ大村藩ヨリ長崎縣ニ請取タル分

内

金八百貳拾八四九於七又八毛

是レ八四印

請於文上表書  
之ル帳簿

帳簿之通家ノ御貞助以下五地

人へ地代金已ニ下渡痛ノ分

金七四八於又

是レ八前全断帳末へ記載アル家ノ御吉治以下於人へ地

代金下渡ス(又分当庭欲置見分)

小次金八百三於六四七於七又八毛

差引

金四於六又成聖

是レ則大村サ藩司ノ川請高ヨ下渡高ニ過剩ノ分トス右ハ粉千

文救百口ヲ當時ノ金ニ換元斗也舟ノ寄過ノ生共モノ九(レ)

明治三十年十月一日受  
三年 月 日 決

主任

市川隆平

田中力也

源氏



出御録へ 為末

秋、弟四百五十六号

以君が借用請書に異字法  
一件老教月御記に片左記  
之通及及少通度より案以度手

相成後片段眼也  
一、異字法  
田中力也  
持立へ  
御記に  
片左記  
五十五

三冊

三十一日

長崎縣

一 中印 派 田

卷 册

一 浦上村山内異宗統田畑修地死に取調帳 卷 册  
在

志 子 野 下

志 子 野 下

心 仙 保

心 仙 保

明治十一年十月二日 受  
決

主任

畑島吉蔵 属

彦助 傳

西海新歌浦上村四里の遠地

妙なり、後、付録、所、保存、者、務

一切、綴、修、司、以、我、如、右、ハ、ま、あ、こ

妙、り、ま、海、し、存、分、の、大、才、多、歌、者、も、あ

入、し、す、あ、出、色、部、は、け、め、中、也、也

三十四日

彦助 傳

文、中、の、中

明治十二年三月廿日受の月日の巡議  
十年 月 日決 月 日行

主任三原五郎

委任物

おれ云々 向分... 日多... 乃... 何... あり...

宇山 撰中...

北... 貝島...

三原五郎

三原五郎

浦上村字トボレ山

記

一九五五

石次金四郎

山程新 三ノ山又新

河内村核志... 日村又市不請居甲候

元東郷

願主

木下七初

八十九

百十八

四村字三坂一山  
一九五五反

台以金抄抄五山

以稅祈而少於之額

今去三石河因把池田喜而後了  
之於年節賞請中後實  
同人只字初請居甲後

一本木村

願主

一本寺

月利字為山

一丸 寺名

石塔寺新八斗

六段寺名 細

寺名 石河内子 助先祖 石丸 寺名 前買請

一本 木村

石丸

所圖 寺名

石丸

可也者其只今詞中云在夏而以悟其意乎中上之也

明倫十卷 卷之三 三月亦三

芳是課雜野語掛

笠原殿

軒付大助

抄下大區西打地新活買成之類一併身者頭任務用  
有得去之方福多多類上及也

第其福新勢柳



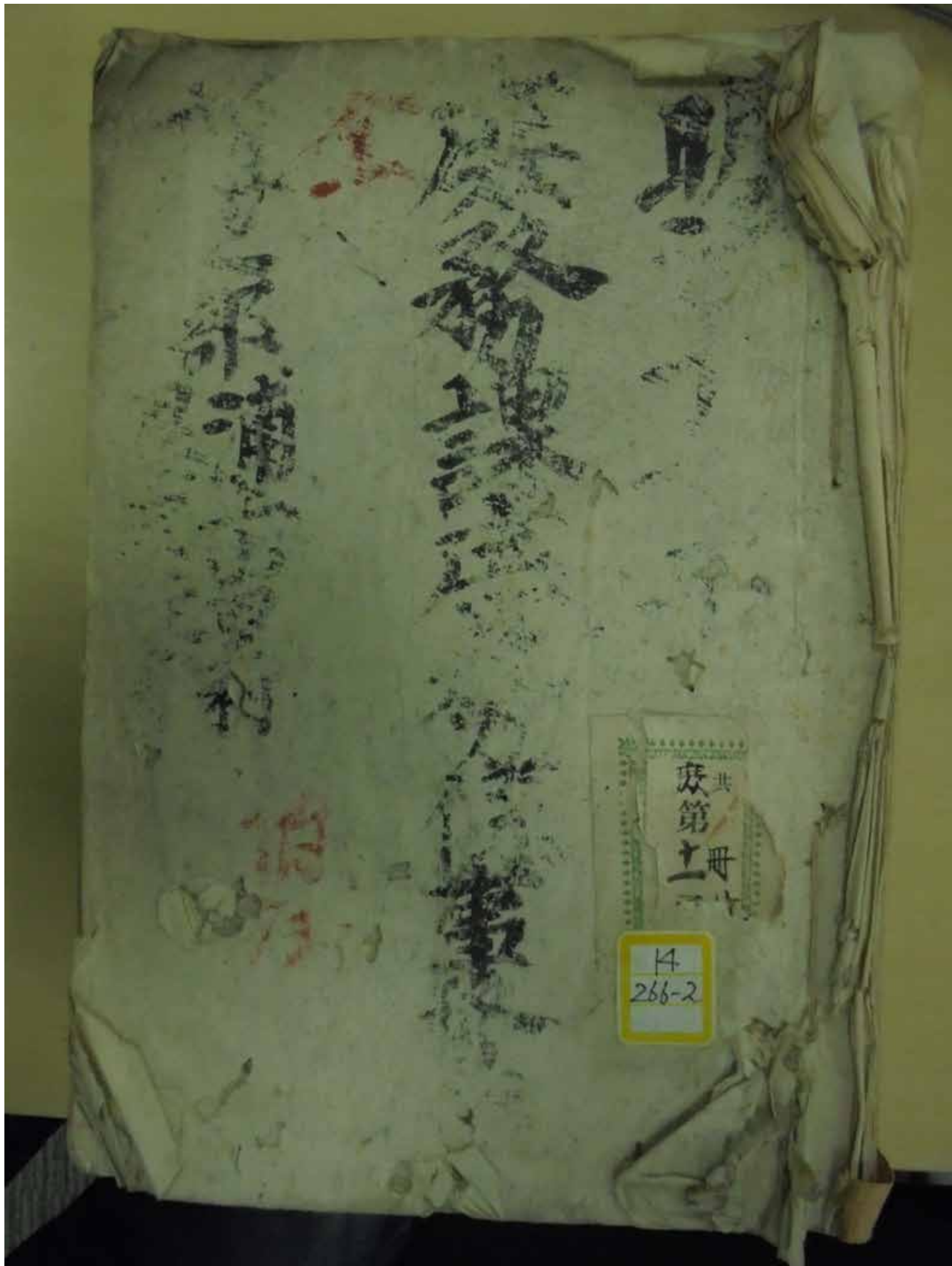
公至原殿



西尾名  
邱大  
邱大  
邱大

二十

122



追願書

曩昔小民等旧大印藩内賞受畑地并  
、町家入札金所持品拂立金田畑  
備米代金穴地作性金等亦下流  
係其際、**詳細**奉<sup>上</sup>陳候奉<sup>察</sup>  
理由十九日以下、**神達**市下流、**際**  
亦、**女**考奉<sup>追願</sup>候也

西彼村郡浦上山里印

武百六村署名

武代人



助 以十七年七月八日

只、因甚三郎  
深堀甚平

西麓三古堂

厚地字八

厚地字八

厚地字八

可打多長成地

林想四序

長嶼巽左石田東去微

前書之道無... 進建仕信也

民不亦三百九十口也

前書之通縣縣令進達位德也

七年八月七日

新木郡長代理

書記高月德治



西宮市初河上三丁目

沙方六郎四郎

新木郡長代理

高月德治

高月德治

別紙之通一部  
任子受又介  
此三三付委  
任長官相  
任在  
少由候也

西彼村初浦上山里村

此方六打四名

郭理出成人

河内吉兵衛



明治十七年一月一日

之

河内基平

之

吳昌碩畫  
二六八  
十

吳昌碩畫  
二六八  
十

海州堂

立

吳昌碩印

立

西苑三石人

立

吳昌碩印



委任状可

北方共集 厚城 吉冬中 海城 基平 海城

宇八片 岡 甚 三 中 西 尾 三 吉 冬 中 相

川 友 八 子 以 子 部 理 共 氏 人 上 空 大

抄 吉 冬 中 名 義 三 子 左 ノ 權 限 ノ 事

子 代 理 為 此 事 乎

一 田 大 お 落 内 里 受 知 地 名 三 子 以 子 抄

子 代 理 為 此 事 乎

一 助 家 入 札 也 三 子 以 子 抄

一 下 所 抄 札 也 三 子 以 子 抄

一 町 知 備 札 也 三 子 以 子 抄

右 代 理 為 此 事 乎 西 海 村 即 浦 上 山 田 村

西 海 村 即 浦 上 山 田 村

卷之十一

竹

竹

竹

竹

竹

竹

竹

竹

竹

竹

竹

竹

竹

竹

竹

竹

竹

竹

竹

竹

竹

竹

竹

竹

竹

竹

竹

竹

竹

竹

竹

竹

竹

竹

竹

竹

竹

竹

竹

竹

竹

竹

竹

竹

竹

竹

竹

竹

竹

竹

竹

竹

竹

过 櫛 山 平 作  
 过 櫛 山 平 作  
 过 櫛 山 平 作  
 过 櫛 山 平 作  
 过 櫛 山 平 作  
 过 櫛 山 平 作  
 过 櫛 山 平 作  
 过 櫛 山 平 作  
 过 櫛 山 平 作  
 过 櫛 山 平 作  
 过 櫛 山 平 作

浙 海 海 海 鄂 岭 岭 岭 岭 岩 岩  
 川 口 口 口 口 山 山 山 山 永 永  
 大 海 海 海 海 名 名 名 名 永 永  
 部 岸 岸 岸 岸 者 者 者 者 市 市  
 造 造 造 造 造 造 造 造 造 造  
 部 部 部 部 部 部 部 部 部 部  
 部 部 部 部 部 部 部 部 部 部  
 部 部 部 部 部 部 部 部 部 部  
 部 部 部 部 部 部 部 部 部 部  
 部 部 部 部 部 部 部 部 部 部

佛脚  
佛脚  
佛脚  
佛脚  
佛脚  
佛脚  
佛脚  
佛脚  
佛脚  
佛脚  
佛脚  
佛脚

佛脚  
佛脚  
佛脚  
佛脚  
佛脚  
佛脚  
佛脚  
佛脚  
佛脚  
佛脚  
佛脚  
佛脚

天也吉川泉今名保野山保字毒少  
武吉川伊三郎 寺 泉 今 名 保 野 山 保 字 毒 少

少保字毒少保字毒少保字毒少  
少 保 字 毒 少 保 字 毒 少 保 字 毒 少

此書係... 卷一 條  
... 卷一 條

此書... 卷一 條

此書... 卷一 條

此書... 卷一 條

野山書

四本林藩内署受知地志輯上全

明家少孔全

可持子輯之全

日知備系代全之件

小武昔以回野上全案月々た奉件

陳大

野山一系

小武昔明治二年教法係付政府存

今以何多地志輯上全案月々た奉件

在一年曾數十年矣四本林藩内

極浦上人長子署受知地志輯上全

凡そ指命シタルモノトモモ官位ハ何ナリ

府地ノ有者ヲ因重シタル亦々何ナリ

序ノ後後重額ヲ領收セシヤ若シ官位

之ヲ領收セシ田重上係細地亦々係細地

其ノ下々代生ハハ代考ニ下共有一ハ

底ヲ推ス由(因)有る者ニ安自ナリ然ルニ

流亡年所村反動年ヲ経過(タルモノ一院)

可知者ニ至リテ其ノ領收ノ新ケルニ

亦然人吏ノ唯此係新ノ臨業タル深ク人

氏ノ本表長務若クハ觀安あるニ

更ニ下細カ仕ハハ人至リテ

生、業、更、下、細、カ、仕、ハ、ハ、人、至、リ、テ

生、業、更、下、細、カ、仕、ハ、ハ、人、至、リ、テ

生、業、更、下、細、カ、仕、ハ、ハ、人、至、リ、テ

更ニ下條カ仕、乃々全リお陳ノ通リ  
坐、桑東ニ族地ニあり、派シテ本あり、其  
亦、牙一号、江ノ掛、下ケ、代價、時、下派シ  
之、本あり、其の西、桑ノ内、東、利、共

牙ニ條

小氏昔、市下派シテ、利、上、其、牙、三、号、利、明  
家入、札、金、ノ、儀、ハ、派、流、ニ、年、多、地、ハ、亦、利、ケ  
マシ、平、リ、利、ケ、子、在、在、牛、官、陸、新、テ、小、氏、昔  
ノ、掛、家、美、ニ、ハ、危、昔、ヲ、他、人、氏、ノ、儀、派、流、シ、亦、ハ  
之、ケ、利、中、出、矣、シ、武、ハ、打、毀、子、之、ケ、矣、却、シ  
州、ケ、牙、四、号、ノ、利、牛、ハ、明、記、者、ハ、通、ニ、シ、テ、利  
シ、其、ハ、者、時、一、封、ノ、利、事、者、先、其、系、人、爲、其、芳  
ニ、命、シ、其、利、子、ハ、根、領、其、ケ、存、リ、其、

村江小民嘗へて海しき本ルみキ重月  
十九七七ニ市下海しき何テ後坐以連  
市下海しき市下海

牙 三ヶ条

牙四号福ナル市持子拂立金ノ如キハ是  
亦亦至中富屋ノ條只居何リハ民若ノ  
市持子ヲ拂立テタルモノニシテ  
今市下海しきニ其条連ハ市下海し  
ト市下海ス

牙 四條

日... 備... 如...

歷年申之サ更ケ抽籤法ヲ以テ少代  
昔ノ持地サハ依テ存亡ニ別テ牙四号  
福中ニ濟記ヒルル如ク往來ヲ備ヒ  
至キニモソノナシハ其ノ亦ハ比昔ノ少代  
コトモ申シルルルキモノナリ付申シ少代  
下流ニヒ

牙四号ノ事

牙四号ノ事ニ記載有リ官地依テ至  
ノ事案ヲ探知ルルハ比昔ノ比  
ハ少代ヲ存存存存存存存存存存存  
シタリ然レトシテ遠隔地ニ移轉セ  
ルモノ  
因テ政府ハ其ノ事ニ出ルルモノナ  
リ  
負債ヲ政府ノ新テ甲ノ年償シタ  
ルモノ

以テ乙ノ所有ハ道ノ高地、各稱サ附セ  
 うシタんモノヤルガ然ルニ依村ハ在坐ヲ西納シ  
 ムんモシトモノ者得存ハ薄ク附イヌコトアルナ  
 以テ之ヲ老筆ニ同ク浦上全村平武山  
 辰上即チナルモノアリ附村ハ旧村字城ノ  
 調シケテ(高)像ニサ徑テ至ク田傍者却セシ  
 内村松木辰上即チ該地我々余サ去知  
 じタリ依テ口人ハサモ得存ハ行キ其  
 出河外ヨリ子ノ者サ(高)入ルニ依然タル  
 官地ノ附イヌ者ハ之ヲ山口辰上即  
 素ム山ノ高(高)城ニサ去知ルニ依テ曰

七遣 ツテ長ルシ 奇ヲキキマシ 折テモ亦利  
足サ附モ得ル 印スルノ 昔人古ク 玉ル時ニ業  
感 心ありト 奇 性ノ 送 命 折ニ 取  
衣テ 活 坐ノ 如キハ 瓦 紫ヲ 折ニ 取  
テ 奇 用 サ 安リ セサシ 性 悟ニ 惜 ア サルヲ 比テ  
学ニ 何 矢多 思ノ 為ン 之ヲ 七 亦 陳テ 女

大 菜 菜ノ 菜ノ 理 肉ナルニ 何リ 昔一 菜ノ 細  
地 率 菜ノ 用ナリ 七 他ノ 菜ノ 類 菜ノ 毛  
必ス 官 能ク 菜ノ 存シ 之レアル 中 菜 同  
付 女 奇 性 心 昔 菜ノ 折 菜 書  
奇 菜ニ 奇 菜ノ 類 菜ノ 類 菜ノ 類  
神 菜ノ 類 菜ノ 類 菜ノ 類 菜ノ 類

長崎縣

明治十七年二月

伊藤嘉次郎

伊藤嘉三郎

伊藤嘉平

伊藤嘉三郎

伊藤嘉次郎

伊藤嘉三郎

前者之通牒候間進達仕候也

明治十七年五月九

出彼杵郡長不願自出左御



石田榮吉殿

長崎縣 伊藤嘉次郎



外二金拾西二牙

下渡橋一分

金引

錢子五三。三。四。分。或。銀。壹。文。

一。海。區。百。九。十。六。五。文。但。不。稱。一。枚。押。金。

錢。七。粒。三。文。

下。渡。橋。一。分。

金引

錢。四。五。粒。三。粒。七。文。三。文。四。文。

下。渡。橋。一。分。

二。口。在。

錢。五。七。粒。四。粒。七。文。四。粒。七。文。

下。渡。橋。一。分。

外。金。銀。一。枚。四。分。中。二。分。

以金銀... 四百... 兩... 文...

以金銀... 四百... 兩... 文...

利子... 附... 文... 分... 元... 利子... 計... 算...

次三... 目的... 但... 欲... 品... 賣... 排... 必... 全...

一... 錢... 三... 子... 一... 五... 七... 程... 六... 五... 文...

但... 三... 兩... 一... 錢... 七... 甲... 五... 文...

我... 子... 一... 兩... 一... 貫... 五... 五... 文... 下... 逐... 備... 分...

以... 金... 一... 兩... 一... 貫... 七... 十... 五... 錢... 左...

以... 金... 一... 兩... 一... 貫... 六... 十... 文... 四... 具... 庚... 乙... 分...

金... 一... 兩... 一... 貫... 五... 十... 文... 左...

錢一百元 每員五百文

好金六枚 每枚三錢七分五厘

好金五枚 每枚三錢七分五厘

牙四條 自的

正回烟備米

一金戴五九氣五枚五錢九厘

好金五枚 每枚三錢七分五厘

好金五枚 每枚三錢七分五厘

元大村藩内浦奈木桐葉其福其美  
同藩分海舟其美其代其下海船

海舟字六ノツラ 字中五 三百千番

一桐地 三年前 改正及利 上取十石 森田多千

右取お七ヶ年 前浦奈木西浦木好五印分

代里一内三取六美三 買請自能此美也一珠

右取常時浦奈木西中尾好五印 此付長年

日取字高 山 字其美川 五万二千九番 一及三取八石 四改正 終本 坊有

一桐地 七井前 改正及利 一取九石 日人

其方之善新什望之古其善人亦納物地以耕下  
亦成括中一法從中一依二一善亦以此也  
丙十二月一日  
第十丑君臣刻名長  
朱念言一書

元正村廣白澤全相買得片步其方子  
同三廣分以買之廣身代全以下後致

御系字墓一脚字九尾五万八千卷八款三歩一也

一物地二年一爵改正及訓四款一歩五

右在買得清一在善一者其全代中果一少亦多自能

右在當時備其西人下其并六物也其

右之其清、年、新、  
其、主、代、中、未、少、其、少、白

右之其清、年、新、  
其、主、代、中、未、少、其、少、白

中、年、

右之其清、年、新、  
其、主、代、中、未、少、其、少、白

右之其清、年、新、  
其、主、代、中、未、少、其、少、白

右之其清、年、新、  
其、主、代、中、未、少、其、少、白

右之其清、年、新、  
其、主、代、中、未、少、其、少、白

右之其清、年、新、  
其、主、代、中、未、少、其、少、白

右之其清、年、新、  
其、主、代、中、未、少、其、少、白

右之其清、年、新、  
其、主、代、中、未、少、其、少、白

山下橋之成中分山書付手類類也

和申五下二一カ也

御上おりまゝあり

明徳二年十一月三日

井手政吉

長端無る書礼儀河内五也

前書一也まゝ類共々付御上も山下何吉

片札をわき御上も西元五也片書も御上も

御上も御上も御上も御上も御上も御上も

以多... 年... 在... 代... 二... 十...

五... 下... 也

为十五... 到... 也

为十二月一日

若食... 也

元天村... 物... 也

回... 也

御... 字... 二百十五... 四... 六... 也

一物地二年... 改正... 三... 太... 也

右... 也

也

日... 字... 二百十五... 四... 六... 也

一 柳地 一平二條 為 改正及列 一 叔廿五歩 白人

右 七々々 自前 柳地 西 度 法 代 至 二 四

△ 右 七々々 自前 柳地 西 度 法 代 至 二 四

右 七々々 自前 柳地 西 度 法 代 至 二 四

三百八十六番 五廿九卜  
三百八十八番 七廿二下  
三百九十二番 七廿七下

中 左 由 五 卜 改 正 三 力

一 柳地 三 平 二 條 為 改正及列 二 及 三 十 歩

西 可 芝 三 兩

右 七々々 自前 柳地 西 度 法 代 至 二 四

代 至 一 四 十

右 七々々 自前 柳地 西 度 法 代 至 二 四

右 七々々 自前 柳地 西 度 法 代 至 二 四

右 七々々 自前 柳地 西 度 法 代 至 二 四

... 己年 為宗... 他再... 轉...  
... 右... 法... 引...  
... 成... 心... 房... 之... 作...  
... 題... 氣... 矣... 石... 代... 主... 亦... 傳... 右... 亦... 成... 其... 矣...  
... 下... 後... 之... 傳... 分... 代... 主... 亦... 傳... 右... 亦... 成... 其... 矣...  
... 矣... 一... 之... 細... 地... 矣... 亦... 下... 後... 之... 傳... 分... 代... 主... 亦... 傳... 右... 亦... 成... 其... 矣...  
... 竹... 子... 類... 類... 矣... 亦... 下... 後... 之... 傳... 分... 代... 主... 亦... 傳... 右... 亦... 成... 其... 矣...

中十五六三十一

南...

順...

日...

西...

在云云

古之曰大村廣為自陳之亦相異得自能任  
去之亦亦去之已至 為其家為一他路  
智短之亦作什多由 下初廣為一記年  
以少引分、折成之亦多入 以方村廣為  
買其之亦作什多由 本自多知空 亦以  
以情也 亦成所 亦了、以中 亦以作什多  
代力也 亦作什多由 亦了、以中 亦以作什多  
以下 亦成所 亦了、以中 亦以作什多

庚十五方運丁力

庚十五方運丁力

庚午年十一月三十日

庚午年十一月三十日

高川 吉雲

長崎縣大書記菅河田重吉

前書一也 子孫共之 仙舟至之 大平の

島山中 亥刻 卯年 卯年 卯年 卯年 卯年

卯年 卯年 卯年 卯年 卯年 卯年 卯年 卯年

卯年 卯年 卯年 卯年 卯年 卯年 卯年 卯年

卯年 卯年 卯年 卯年 卯年 卯年 卯年 卯年

卯年 卯年

卯年 卯年

卯年 卯年

卯年 卯年

元天利漢相相買瑞長無子  
 向慶子少出月之廣一也  
 何全子下坊銘

學部字所存山字古川  
 聖聖王唐  
 六世王守山

一細紀  
 三三三三  
 一高  
 改正及訓  
 一故亦  
 其音言三

石之四多信手致子  
 水今學念亦西東山

信在亦小以全二刀口  
 亦美言  
 貫信傳神也

山王力其江字西細  
 義道方也他子致中一

石之為其神也亦西東山  
 後田人未也細也

石之為其神也亦西東山

右方村属白州系相国县法兵也  
右方村属白州系相国县法兵也  
右方村属白州系相国县法兵也  
右方村属白州系相国县法兵也  
右方村属白州系相国县法兵也  
右方村属白州系相国县法兵也  
右方村属白州系相国县法兵也  
右方村属白州系相国县法兵也  
右方村属白州系相国县法兵也  
右方村属白州系相国县法兵也

和十二月一日

和十二月一日

宋金三女言

元大村房月御前相買其子  
同属公以買房其子以下皆

御前字長久乃字長年

七百三十六卷

一細地三平之游

改正及刊七百三十六卷

右尾 西千

右尾西千  
成りまきまき  
成りまきまき

西千  
成りまきまき

西千  
成りまきまき

西千  
成りまきまき

御前字長久乃字長年 七百七十一卷

一 西千  
成りまきまき

一河... 改正... 一七十七...

方... 子... 此...

日... 字... 尾

五五八十六... 四四三...

一... 荒川... 尾

一... 尾

一... 尾

日... 尾

五五八十六... 四四三...

一... 尾

一... 尾

一... 尾

心身中一也

右云云乃所由來西山下福色川等村在云云

右云云乃村廣白濁等細貫諸山能生云云

右云云乃己年 是宗年 他野之精修也

作身在也 右相廣如一 諸山引分

右云云乃重山心 四方村廣台 亦覺之 山作中

右云云乃重山心 四方村廣台 亦覺之 山作中

右云云乃重山心 四方村廣台 亦覺之 山作中

右云云乃重山心 四方村廣台 亦覺之 山作中

生居了 云初犯言 以下始与成下分 以毒

竹 音 款 款 子 中

第十五万三一千色

那 奈 山 山 山 山 山

右尾 委干

日色 日色

日 山 山 山 山

本 森 忠 志 乃

日色 日色

日 山 山 山 山

美 原 川 能 志 乃

日色 日色

日 山 山 山 山

片 岡 山 山 山

长 保 縣 大 壽 記 崔 河 内 並 乃 可

前書し通奉朝令身御身至山下福也  
多取多子御身元元庄屋中富多不  
海力以金甲一年右四折代至八十年  
細祀山排下亦成布一多順中一  
依平一多事下少也也

和子二月日

力十三年色到力七

和子集二二子

元大お藩内陣村細買居身及  
同藩分少置屋身代至山下後新

海力以金甲一年右四折代至八十年  
細祀山排下亦成布一多順中一  
依平一多事下少也也

通奉朝令身御身元元庄屋中富多不  
海力以金甲一年右四折代至八十年  
細祀山排下亦成布一多順中一  
依平一多事下少也也

一桐元一平五年之時 改正及例 七十三岁 本村の多介

右之三本三子年 初陣家 出立中 九子七子

道 強之印 代至 六本 業 三 貫 信 自 能

此 業 中 一 年

但 之 細 之 妻 一 條 八 谷 家 満 宗 西 門 中 九 本

坊 主 中 一 年

日 前 字 多 心 字 若 川 五 五 五 八 三 四 四 六 六 六 一 〇

一 回 上 林 上 坊 改正及例 一 七 本

深 堀 利 高

右 之 貫 信 幸 致 代 主 子 中 家 陽 宗 西 字 的

本 信 宗 下 貫 信 自 能 此 業 中 一 年

此係竹堂用石欄廣物之張多以此引  
 今亦成之方多以此大對廣古通貫止以保  
 外之長趨在事氣氣所失方成主以保在  
 亦成於此矣之 以下皆以此保竹各  
 代主之少皆在 喜涉之能保之 元初規  
 三 以下皆以此保竹 心書竹在能保在  
 也也

才五古三二一

南朝 刀兵 一

明倫彙編 十一月廿五

日進月進

西田光之

嘉慶四年

白田口

新田多子

白田口

白田口

酒川多子

白田口

白田口

泥堀利多

白田口

白田口

田川多子

長崎の大書記産河内多子

前書一追尋多子身他多子

因川一勝在舟中記其系子陣安西元元  
月は多るも浮石なる所也 明暦年中年 右五折  
代金二四四十年才 亦細細記此拂下  
長布一五折中初 底下子多下 終也  
元十二月日  
朱倉口書

ウナ五五五五五五五

元大村藩内 浦上村 細買請居候處

同藩 細買代金 印下渡願

海に於けるありの所内 七の六十七の 十三  
右に其後年報 成りし事 為るに 少ありし也

右之異信年報 似布之也 高皇皇 少如分 似  
似集市 一 殊

同新字月別 字頁余所也

七方六十七号 十五下  
七方七十八号 六也十下

一 同一年 一 府 改正及別 一 五十一号

右尾 殊七

右之異信年報 似布之也 少如分 似  
高皇皇 似集市 一 殊

白新字 七方六十七号 一及一也 林十下

一 同二年 一 府 改正及別 一 五十八号

深堀 殊七

右之異信年報 似布之也 高皇皇 少如分 似

似集市 一 殊

在尾錄七

白也白也

白也白也

白也白也

白也白也

白也白也

白也白也

古蹟知大書記在河內其方海

古蹟知大書記在河內其方海

古蹟知大書記在河內其方海

古蹟知大書記在河內其方海

海内唯此五年甲午在四折代至八十年

亦初細規以拂下... 亦初細規以拂下... 亦初細規以拂下...

他... 亦初細規以拂下...

于十二月一日

亦初細規以拂下...

亦初細規以拂下...

元天村房內... 亦初細規以拂下...

日房... 亦初細規以拂下...

亦初細規以拂下... 亦初細規以拂下...

一山井二... 亦初細規以拂下...

亦初細規以拂下... 亦初細規以拂下...

亦初細規以拂下... 亦初細規以拂下...

卷之五

卷之五

明倫彙編

卷之五

忠孝節義

前立一節 有節者 必也 節也 必也 節也

忠孝節義 忠孝節義 忠孝節義 忠孝節義

明倫彙編 卷之五 忠孝節義 忠孝節義

忠孝節義 忠孝節義 忠孝節義 忠孝節義

忠孝節義 忠孝節義 忠孝節義 忠孝節義



卷之五

卷之五

朱金堂

八千三百六十二

浦上村山里

戸長

其村左ノ者共旧大村藩人民ヨリ買入ノ  
土地明治三年中買戻レ代金前記ノ通り  
有之候處各人員其砌不在中ニ付縣廳工  
預金致居候ニ付今般交付候余各自受  
領証ヲ以該金受取方縣廳出納課工可  
申出旨其切節ヨリ違有之候余受取方  
可取斗此旨相違候事

八中千る三ある(一)

浦上村山里

戸長

其村左ノ者共旧大村藩人民ヨリ買入ノ  
土地明治三年中買戻シ代金前記ノ通り  
有之候處各人員其砌不在中ニ付縣廳工  
預金致居候ニ付今般交付候余各自受  
領証ヲ以該金受取方縣廳出納課工可  
申出旨其節ヨリ違有之候余受取方  
可取斗此旨相違候事

明治十三年十月二日

邦長代筆

西時押邦長記高橋正紀



Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like '其時', '音', '田', '大', '林', '高', '橋', '正', '紀', '記', '高', '橋', '正', '紀', '記'.

浦上村家野郷

元異宗徒

考时陽長流戸主 同五印

吉次

現戸主

多十

当时亡戸主 亮三印

左十

口亡戸主 山内 亮十

住八

現戸主

忠右衛門

亡戸主 同三印

九郎一

亡戸主 市杵

吉藏

現戸主 友朋 亮十

茂助

亡戸主 市杵 亮印

伊之助

有时强水流至主 ② 五卯

眼平主

有时元平主或卯

口 七 七 七 七 七 七 七

卯平主

七 七 七 七 七 七 七

七 七 七 七 七 七 七

七 七 七 七 七 七 七

七 七 七 七 七 七 七

元平主

七万五 湖のりるはり

伊太郎

取万五 湖のりるはり

和彦

同中野郷

取万五

物十

同本魚郷

七万五 久作

未藏

取万五

吉次郎

七万五 山下

次八

七万五 岩西園

未吉

地所金員調

ウエシノ三枚

家ノ郷

一畑貳畝 負小麦一升五合 茂助

代美壹貫六百廿三文

佐古ノ數枚

家ノ郷

一畑五畝

米二升五合 代三ノ八百五十五文  
麥三升二合五勺 代三ノ四百七十七文

市次席  
伊之郷

代美七貫三百六十七文

數拾枚

本原郷

一畑三反三畝 負米一斗一升

市次席  
伊之郷

代拾六貫九百四拾文

源八

地所金員調

ウエンノ三枚

家ノ郷

一畑貳畝 負小麥一升五合 茂助

代義壹貫六百廿三文

佐古ノ數枚 家ノ郷

一畑五畝

米二升五合代三ノ八百五十五文  
麥三升二合五匁代三ノ四百七十七文

市次席  
伊之郷

代義七貫三百六十七文

數拾枚 本原郷

一畑三反三畝 負米一斗一升

市次席  
伊之郷

代拾六貫九百四拾文

源八

家野郷

一畑八畝負麥五升

吉次

代美五貫四百拾文

七枚

一畑三畝負小麥壹升

任八

代美壹貫八拾二文

九

七枚

同

一畑五畝負川麥三升五合

多十

代美三貫七百八拾七文

西ノ平壹枚

同

一畑二畝負米三升

花十

西ノ平壹枚 同

一畑二畝 負米三升

花十

内六枚 同

一畑二畝 負小麥一升八合

代姜壹メ九百四拾八文

一畑二畝 負小麥三升

代姜三メ二百四拾六文

同

一畑壹反 負小麥二升

代姜二メ百六十四文

一畑三畝 貢小麦六升

伊太市  
羽右坊

代麦九メ二百四拾文

同

一畑四畝 貢小麦三升

吉藏

代麦三メ二百四拾文

一畑三畝 貢米四升

花十

代麦六貫百六拾文

中一郷

一畑七畝

物十

代麦三メ七百八拾七文

一畑七畝

代美三又七百八拾七文

山六畝

惣十

一畑七畝

代美四貫六百廿文

左十

本原郷

一山七畝

代美拾壹又三百三十二文

未吉

但山藩縣見込平均直段拾七貫文

一三六分一

全残八拾六貫五百七拾二文

但金一個二付拾七貫百文換

異宗徒明家

取銀以修屋或成人也

是八進上地後中身入札之障

去破多修屋或成人也

是分入札拂

半漢字用多也

是分乃札拂

一住家貳百八拾八軒

一小屋百拾七軒

此小記

住家 五軒

浦上村山里

五ノ郷

里

異宗徒明家

取銀以恒店為成以分

是八進上城後中其生入札其除

去破多住店亦其成

△ 是分入札拂

半漢三用其多城其分

□ 是分入札拂

小屋 五軒

是之加録正位不立加の字進之管位不立加の字刀形多降

住家 貳拾軒

里郷

小屋 六軒

是之加録正位不立加の字刀形多降

住家 六軒

同郷

小屋 三軒

是之加録正位不立加の字刀形多降

住家 貳軒

平野郷

小屋 壹軒

是之加録正位不立加の字刀形多降

住家 貳軒

家野郷

是之加録正位不立加の字進之管位不立加の字刀形多降

住家 拾軒

住家 貳軒

家室組

是より銀以住居有銀半寸進と貸渡り申すなり刀形梯

小屋

拾五軒

是より破上住居有銀半寸刀形梯

住家

貳拾九軒

同郷

是より破上住居有銀半寸刀形梯

住家

拾六軒

本系郷

小屋

四軒

是より銀以住居有銀半寸進と貸渡り申すなり刀形梯

住家

七拾九軒

同郷

小屋

三拾軒

是より破上住居有銀半寸入形梯

住家

四拾八軒

同郷

小屋

貳拾三軒

是六半  
蹟号  
子月  
之号  
刀  
和  
拂

惣又此高

里郷

一任家売軒

道上

ニシ

此乃和語 五石文

石上

市郎次

一小屋売軒

同和語 四石文

女同人

但し屋鋪里郷 正宗市三郎持地

一任家売軒

道上

ス工

此乃和語 五石文

石上

市郎

但し屋敷平野 祐正三郎持地

ノ

一任家売軒

道上

シマ

一小屋売軒

是ハ加儀ハ位為成儀寸ノ形在陣

一住家寺軒

此乃形又之形也

但し屋敷里御正栄大ニ郎持地

日 民造

及之 為考

一住家寺軒

壬申七月廿日

此乃形也

但し屋敷平野宿正栄清助持地

日 廿五〇

平 海平郎

一住家寺軒

一住家寺軒

此乃形也

江平 市堂門

町商 市以郎

小庵志軒

比方抄文

市三郎

市三郎

一住家志軒

比方抄文

市三郎

市三郎

比方抄文

市三郎

市三郎

一住家志軒

比方抄文

市三郎

市三郎

但し屋敷里脚 正宗甚三郎持地

市三郎

市三郎

一住家志軒

比方抄文

市三郎

市三郎

比方抄文

但し屋敷平野着 正宗甚三郎持地

未十月廿二日、里一、多田部、一、貸屋、久

子、字、云、月、流、油

○住、家、吉、軒

○以、力、丸、丸、方、多、文

日

里、一、重、三、印

日、マ、ス

但、屋、敷、呈、脚、正、宗、重、三、郎、持、地

ノ

一、住、家、吉、軒

日

夕、子

是、八、所、餘、の、住、家、吉、軒、の、方、に、取、去、除、す

但、屋、敷、平、爲、正、宗、重、三、郎、持、地

○住、家、吉、軒  
子、申、三、月、廿、二、日、下、流、油

○示、堂、吉、軒

坂、本、茂、十、〇

此、方、取、去、〇、三、十、七、日、方、多、文

三、月、廿、二、日、取、去、除、す

○小屋寺軒

此乃私契。二十五年ノ書文

平ノ家

也

○小屋寺軒

壬申三月廿六日

坂本

金聖門

此乃私契。到ノ書文

坂本

卯三郎

但屋敷正宗卯三郎持地

✓

一住家吉軒

坂本

吉郎次

小屋寺軒

此乃私契。任所ノ書文

但屋敷坂本正宗佐吉持地

✓

一住家吉軒

小屋寺軒

日

次助

姓乃乳淺之者五ノ久

但里御平為正末正三郎持地

手宛 出ノ中

メ

一住家 吉軒

其の乳が三ノ久

田 久造

手宛 出ノ中

手宛 三ノ久

一住家 吉軒

田 文七

一小屋 吉軒

其の乳が七ノ久

田 出ノ中

但屋敷坂本正末正三郎持地

メ

手宛 三ノ久以上注雨

一住家 吉軒

田 甚三郎

一小屋 吉軒

一山屋吉軒

一住家吉軒

此方杉皮之山屋

坂本 久三郎

一住家吉軒

一山屋吉軒

下土井 光造

此方杉皮之山屋

但屋敷東溪所 持地

一住家吉軒

一山屋吉軒

此方杉皮之山屋

日 7 七

賊徒より取上りて付持之字分  
○印名有買成し物し以持之字分

一牛

五足

買之字分

一豕

六足

字故本

一野羊

七足

乙五部

ノ代錢而抄五ノ又

丙三月十日以下落表取持之字分

而取之字分取之字所持

一猫八抄儀

中勤之字分取之字所

走 馬込

七口氏

新儀儀

一目 四抄儀

○印者買庚之有之以此之少詳

賊徒多取且無存持之少分

一牛

五足

買之里人

一豕

六足

字故本

一野羊

劫足

乙

代淺而於五ノノ又

丙三月十日以下活其或早活其有之

而東今事三年事之少所特

流

ソハ流<sup>〇三十一</sup>ハ流<sup>〇三十一</sup>ハ流<sup>〇三十一</sup>

右左平印中

一錦

抄法

買之品込

ソハ流<sup>〇三十一</sup>ハ流<sup>〇三十一</sup>ハ流<sup>〇三十一</sup>

物八

古口人景

一木錦

抄法

〇 主

ソハ流<sup>〇三十一</sup>ハ流<sup>〇三十一</sup>ハ流<sup>〇三十一</sup>

重吉

賦法<sup>〇三十一</sup>ハ流<sup>〇三十一</sup>ハ流<sup>〇三十一</sup>

一切草

抄法

幸京平

ソハ流<sup>〇三十一</sup>ハ流<sup>〇三十一</sup>ハ流<sup>〇三十一</sup>

法郎

右左平印中

一糸 四流

〇 馬込

似三平三井入

傳之流

流

流

流

一家 四流

似三斗三井入

傳流

リヤ成万是...

神經...

野苗美葉 抄法

ノ成成八...

成佳...

日葉...

主...

心成...

抄...

一等...

...

平...

...

子...

在...

世...

忠...

松...

似三斗三井入

傳統

シハナクニシテソノカケルルノク  
徒ヨリカクニシテカケルルノク

百善業 如法依

シハナクニシテソノカケルルノク

世号考

賊徒ヨリカクニシテカケルルノク

白草旬ノ戸概

字牌之類

主勿カケルル

新徳部

也哉万カケルルノク

抄主カケルル

一筆字句ノ概

シハナクニシテソノカケルルノク

忠屯

平物 四艘

主所

抄三郎

也哉万カケルルノク

一 四艘

四 四

也 四 万 三 万 文

程 八

一 四艘

四 四

也 四 万 三 万 文

能 八

一 四艘

四 四

也 四 万 三 万 文

能 八

一 四艘

四 四

也 四 万 三 万 文

能 八

一 四艘

一 廿 年 沙 千 三 百 斤

四 四

也 四 万 三 万 文

能 八

也 四 万 三 万 文

本 系 郎 中

但多斤... 文...

本系郎中

一曰 六千斤

也... 文

但多斤... 文

里鄉中野

一曰 五千斤

也... 文

但多斤... 文

中野

一曰 七万三千把

本系

一曰 四千把

中野

一曰 六百把

か... 系

非人

里... 字...

志純郎

四五

馬込郷

小陽會出版

道中

新子情

五万把

三千九万三把

也残万九把

但多把五把

年三四万

一長指 八十

買主更今字在城

也残万三把

古新注郎

但多粹多又八万文卷

一三户

三过那

少多自天

物心八

也残与多五万上

二律以月

系

二律

粟

二律

初

二律

粟之字

切

二律

初考

倚心

二律

倚心 字城 誠政 古切 承

○ 倚心 字城 誠政 古切 承

一 律

二 律

一 律

二 律

一 律

二 律

字馬階

海心 字城 誠政 古切 承

國 考

聖心 字城 誠政 古切 承

一 簿目之類

簿目

二 簿目之類

馬四郎

三 簿目之類

惣八

四 簿目之類

一 簿目

三 簿

二 簿目

三 簿

三 簿目

三 簿

一 簿目

三 簿

簿目之類

和三部

簿目之類

簿目之類

簿目之類

簿目之類

和三部

簿目之類

心法不其為中文字

高昇人... 流... 一...

心

心法七... 心石父

心法七部

本系... 心法...

心

心法... 心法...

心人

心

心法...

心

心法...

心法...

心

心法...

心法...

心法...

心法... 心法...

心法... 心法...

心法... 心法...

心法...

心

心法...

沙地新物女子

常三印

中師今过在古印分

一手按地 三反 也三反

二甜布锦 三反 三反

二沙黄口 三反 三反

二结口 三反 二反

二字字 三反 三反

一障燭立 三反 三反 三反

山望三五三反 教以部

此字三反古月十字下路海

在日画

一候 十九

一梳 十

一收帳

少張

〃 里卿

代城八書文

教印

淳字箇字掉

〃 釋多

代城五書文

往書海

西三月十六日下海。或至該處也。

本東山字平布之助。明子也。也。

海

一草

〃 里卿字馬場

代城五書文

查物

西三月十四日下海。或至該處也。

代城

一草

五張

一草

五

〃 里卿字馬場

里卿

一梳

十

他城八景文

學如自多掉

山城書文

釋多

教巧印

往書

西三月十六日... 〇

本系... 〇

一平

山城... 〇

山星卿... 〇

查工物

西三月... 〇

...

一切...

...

一...

...

...

一 實播為油并抄抄五校

一 板板

買之里柳字馬瑞民

一 流 他城百三...

李之如

此係六年古月...

中鄉江字...

定應即...

一 白 灰

一 王 柳

西上竹

一 多 社 慶

張吉

抄城...

抄城...

中鄉...

一 管...

抄...

一筆書  
三指

一長 指を指

ノ、七、九、十、十一、十二

漢字の形

善くし

おひり

おひり

一、切、平、七、遠

一、美、七、九

車

一、右、和、漢、抄、換

致

ノ、七、九、十、十一、十二

おひり

口

おひり

一、心、新

教

伊、丹、新、三、ノ、文

おひり

古のり

一初致 七

一初具 八

一初... 文

古のり

古のり

一初... 句

一初... 文

一初... 文

古のり

古のり

一初... 文

一初... 文

古のり

古のり

古のり

古のり

古のり

古のり

古のり

ちりり

一鶏

茶小箱

〃 平島

皇所郎

ちりり

七人五人又

ちりり

一鶏

茶小箱

〃 皇所

教所郎

ちりり

三友

ちりり

一鶏

茶小箱

〃 〃 日人

〃 〃 茶小箱

△ 古本中 〃 〃 〃 〃

赤野に字端部少袖子と

一水部

ハシメヨクシク

羅之正部

久吉

古ヨク

日部 各部

ハ里部

ハナク

古部

神物より石目部主分

一水

ヨ

ハ

ハシメヨクシク

古部

古ヨク

一女部

ハシメヨクシク

古部

古ヨク

横山書局出版

八三子より入

人

口人

多物

是

「是」ナニナリ

中三郎

重江字江平知八方ニ多しをんを免由

一粟

是

「釋多」

徳也

五ノナリ

中郎字長子知八方ニ多し

一承

是

「口人」

「五ノナリ」

中三郎

あひり

一印 羊 山 鹿



一覽其數矣了亦七女下

今成同之人

# 善引

金四万六千八百八十八元

又

一錢之數亦多計方四萬八千

亦金之六萬計方計朱

是之極多亦滿金者括一切幸三三萬斤

曝養計年一粟一斗一海喝馬移補也而山九

乙右瑞一即持書

但別銀五萬斤方

一物入五萬斤方支即了  
初言辛巳文七下

張小卷今書

一 全 三 板 女

一 亦 有 八 板 女 三 十 七 程 共 也

一 是 六 十 八 板 女 被 元 代 一 三 刻 五 甲 引

一 亦 有 平 脚 尾 共 七 十 五 板 女 共 七 十 五

一 一 望 如 友 三 分 一 采 亦 有 五 十 文 七 十 一

一 是 一 十 八 板 女 被 一 四 十 八 板 女 元 代 四 板 女 元 代 一

一 三 刻 五 甲 引 亦 有 三 十 七 程 共 也 亦 有 八 板 女 三 十 七 程 共 也

一 一 全 七 板 女 亦 有 五 十 文 亦 有 五 十 文 亦 有 五 十 文

一室七友志分抄本永永抄本八下

Amplified text in a faded, light-colored script, possibly a transcription or commentary.

是少船四艘之角抄本之代抄本之元代より三割り引  
浦上流村寺所に在りてより其代より其代より其代より

少船四艘七友志分

永永八代と云ふ三下七層也

残程正為其抄七友志分

永永八代と云ふ三下七層也

内

一室抄本七友志分抄本

永永八代と云ふ三下七層也

是少船四艘元代より其代より

永永八代と云ふ三下七層也

小陽會出版

殘金四百四十五分

所為如此  
八分  
千一  
分  
五毫



ふくおかはんしゅくろだけほしよ とうちょうじ  
**福岡藩主黒田家墓所(東長寺)**

Cemetery of the *Kuroda* Family, Fuderal Lord of Fukuoka (the *Tachiji* Temple)

東長寺は大同元年(806)、唐から帰国した弘法大師空海が博多の海辺に建立した密教寺院と伝えられています。志摩郡志登村に一時移った後、現在地に移転したといわれています。二代藩主黒田忠之が大檀越(施主)になってから寺域の基礎が固まりました。現在、寺蔵の千手観音立像が重要文化財(彫刻)、境内の六角堂が市指定文化財(建造物)となっています。

この史跡は福岡藩主黒田家の墓所で、西側に二代忠之(1602～1654)、中央に三代光之(1628～1707)、東側に八代治高(1754～1782)の三藩主が葬られています。

墓碑は三藩主とも花崗岩製の五輪塔で、それぞれ兜率天にあるとされる四十九重の摩尼宝殿に由来する49本の花崗岩製の卒塔婆で囲まれています。忠之の墓前には殉死した5名の墓碑である五輪塔が並んでいます。治高の墓石は怡土郡徳永山から切り出されたものです。

これまで東長寺は福岡市の都市化に伴いその境内地を変えてきましたが、三藩主墓所部分は当初の姿をとどめ、福岡藩の歴史遺産として貴重な文化財です。なお、藩祖如水、初代長政はじめ他藩主の墓所は博多区千代4丁目の崇福寺北側(市指定史跡)と東京にあります。

It is said that the *Tachiji* temple was dedicated to buddhist monk *Kūkai* who built in 806. In this cemetery, *Tadayuki* (the second lord of the *Kuroda* family in the Edo period), *Mitsunuki*(the third lord), and *Hanwaku*(the eighth lord) were buried. Their graves have still remained what they were, and they have been designated as a historical site of the cultural heritage of the fuderal lord of Fukuoka.

1998年3月

福岡市教育委員会 The Board of Education of Fukuoka City

みんなの文化財を大切に!

# 成等山正覚寺縁起

千葉県香取郡多古町島二三三〇番地にあり、正覚寺は弘安年間高祖日連大士の直弟常在院日朝上人の開基にして本覚山妙光寺と号す、中山法華経寺に属し本郡三妙光寺の一なり、歴代の先師は不受不施の制規確守し不借身命に日連大士の宗義を弘通し一切衆生を済度せられたり。

然るに寛文六年徳川幕府は不当にも不受不施の正義を禁止せり、然れども当寺住職日泰日如両上人は宗規を堅守せられし故伊豆諸島に流罪となる。

爾來僧俗は内信を以って法灯を守り、寛政六年十月より本派の僧俗十余人、天保九年八月多古法難の殉教者五人等幾多の法災に遭遇す。中村檀林能化職は多分当寺に住職し四Km内外歩行日本全国より参集の僧俗を訓育し居りしなり。

不受不施派再興後明治十年当寺を本山中法華経より借入れ、其筋の許可を受け竜華説教所と号し開山の素意たる不受不施派を弘通する道場とせしも、鷲日耀明治三十九年赴任以来遺憾に堪えざるは、俗屋に本尊を安置し奉るは、仏天三宝に対し奉り不敬至極と心勞処に、幸なる哉名実異なる寺院は廃合すべしとの勅令出し故日耀直ちに中山法華経貫主に対し、勅令実行を迫りしは明治三十九年なりき、漸く同四十一年双方談義買受けることに決定、直ちに登記所にて戸主鷲日耀と記載済みの上法務執行し居りしに大正五年七月に千葉県内務部長より祖山管長宛に県下に本務所無くしては公務上不便尠らずとの通牒ありし故に、爾來千葉県下日連宗不受不施派本務所と公称せり、後、妙覚寺島教会所と称し昭和二十二年四月十日成等山正覚寺と寺号を公称す、先師遠忌を期し宝蔵庫を建立、堂宇、改修、昭和五十五年六月に篤志家の梵鐘奉納あり、信徒浄財を募り鐘樓を建立す。

吳昌碩

孤芳



養之文

別道不換細筆字常口

在物與心及文皆材不為難

至百餘年來筆法及字與之

吳昌碩

心筆皆材

至廣而中編紙

中流

中

卷之

第

一

...

...

...

...

...

...

...



美善堂

善心之友

別道不換  
在如欲取  
至百餘行  
在如欲取  
別道不換

那古  
江平



中派

在德中派

正字  
安筆

不涿去間法如蓮  
華在水

再與百年

日堂

切隅巴瓦に於て

明治十二年に龍華教院

本堂十五年に祖山妙覺寺

となるを建立して此以來

百有余年の歲月を経過

可。昭和六年十二月大

改修のため取替へた屋

根瓦である。



# ニカラガ推定重要史跡 ドン・ロドリゴ上陸の地

(日本・スペイン・メキシコ)

## 日・西・墨三国交通発祥記念之碑由来記

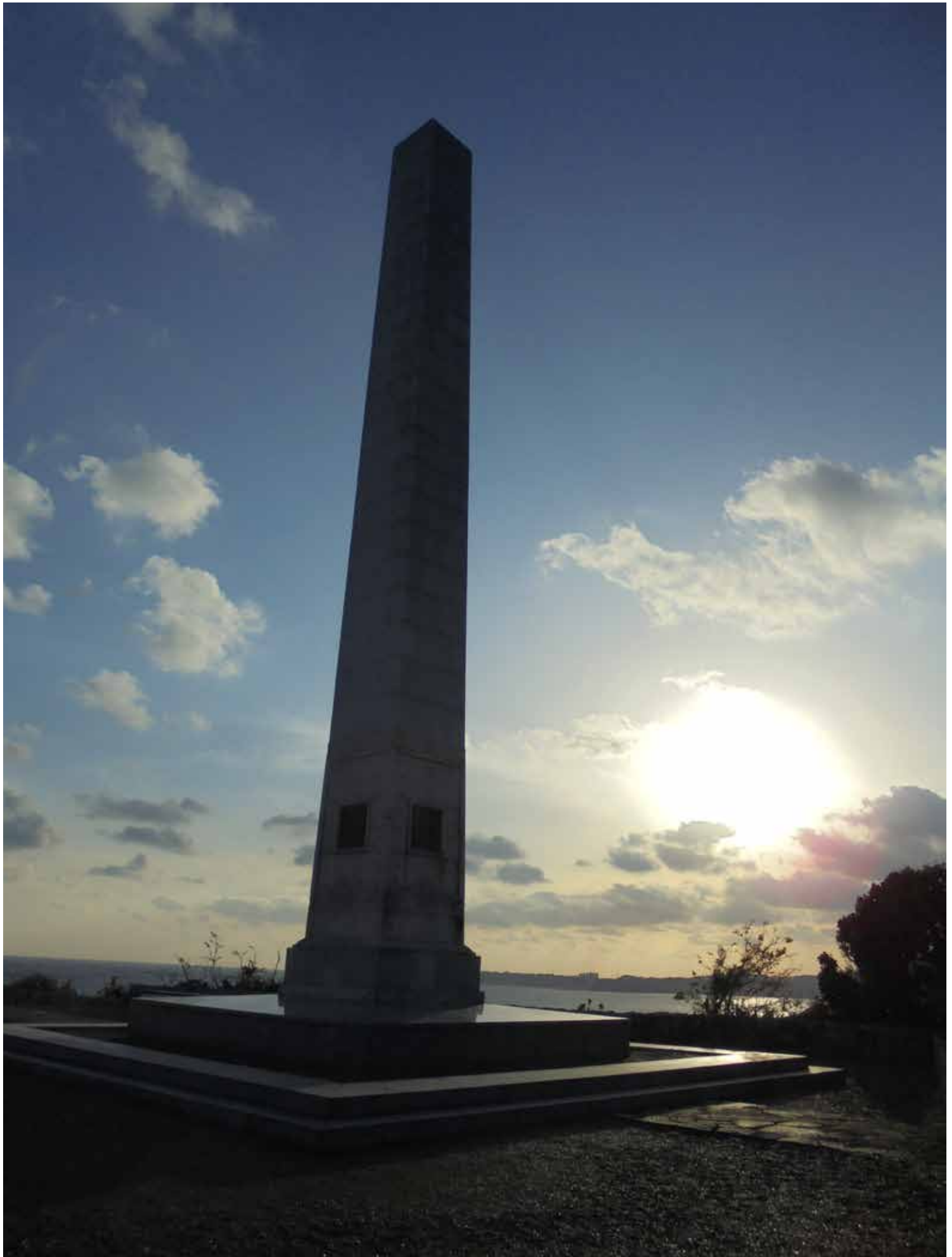
一六〇九年（慶長十四年）スペイン領フィリピン総監ドン・ロドリゴを乗せた帆船サンフランシスコ号はフィリピンからメキシコに向け航海中台風に遭遇し漂流、この岩和田海岸に座礁した。秋九月三十日未明のことである。

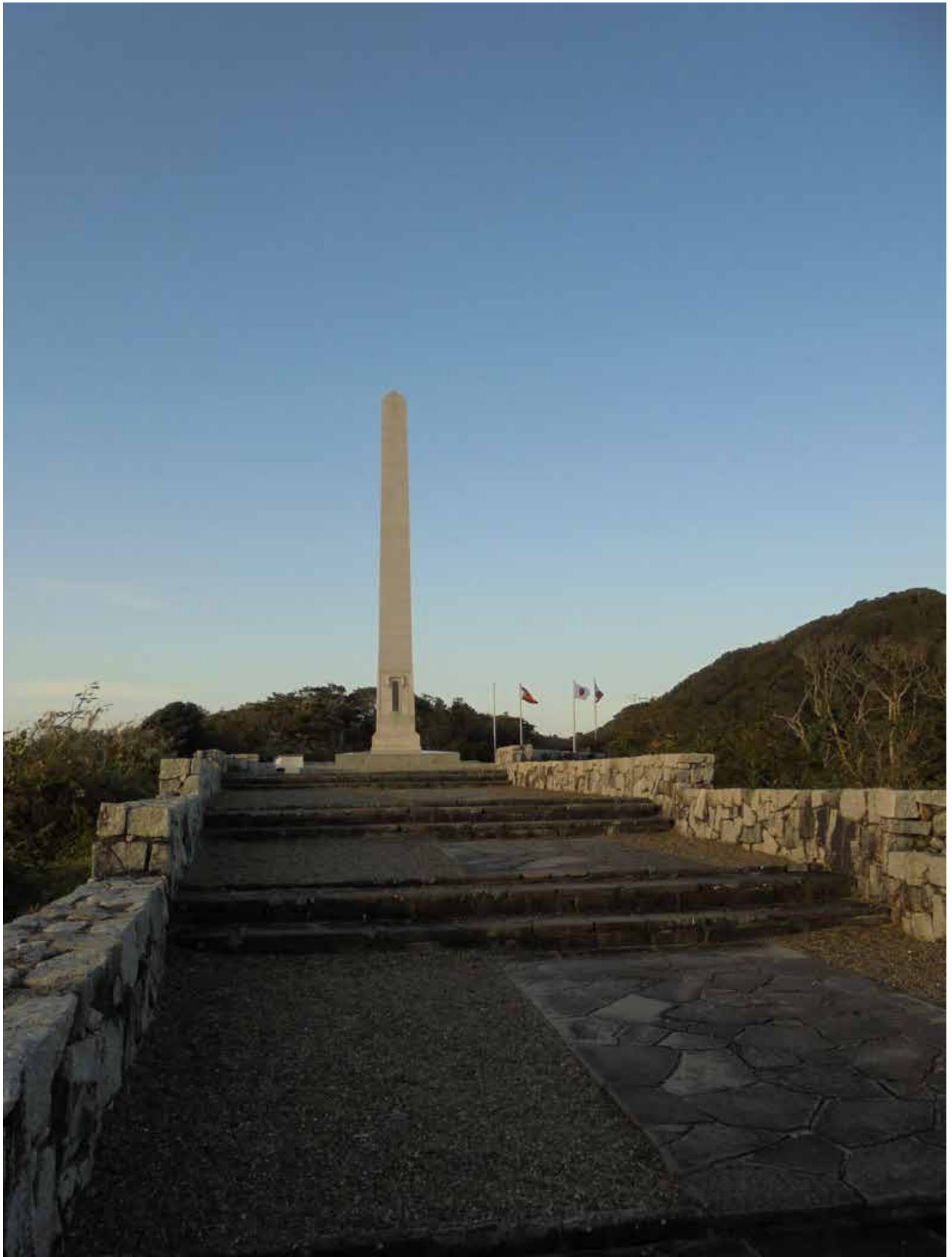
乗組員三百七十三人中五十六人は溺死、残る三百十七人は岩和田村民により救出された。この時海女たちは、飢えと寒さと不安につちふるえる異國の遭難者たちを、素肌で暖め蘇生させたと伝えられている。大多喜城主本多忠朝の判断により遭難者たちは三十七日間岩和田大宮寺に滞在、村民の手厚い保護を受けた後、江戸城に至り將軍秀忠に謁し、更に駿府に至り家康に謁し、翌一六一〇年家康が三浦按針に建造させた新しい舟を与えられ無事メキシコに帰国した。翌一六一一年聘礼使ビスカイノの来日、そして一六一三年支倉常長のメキシコ・スペイン・ローマ特派など、

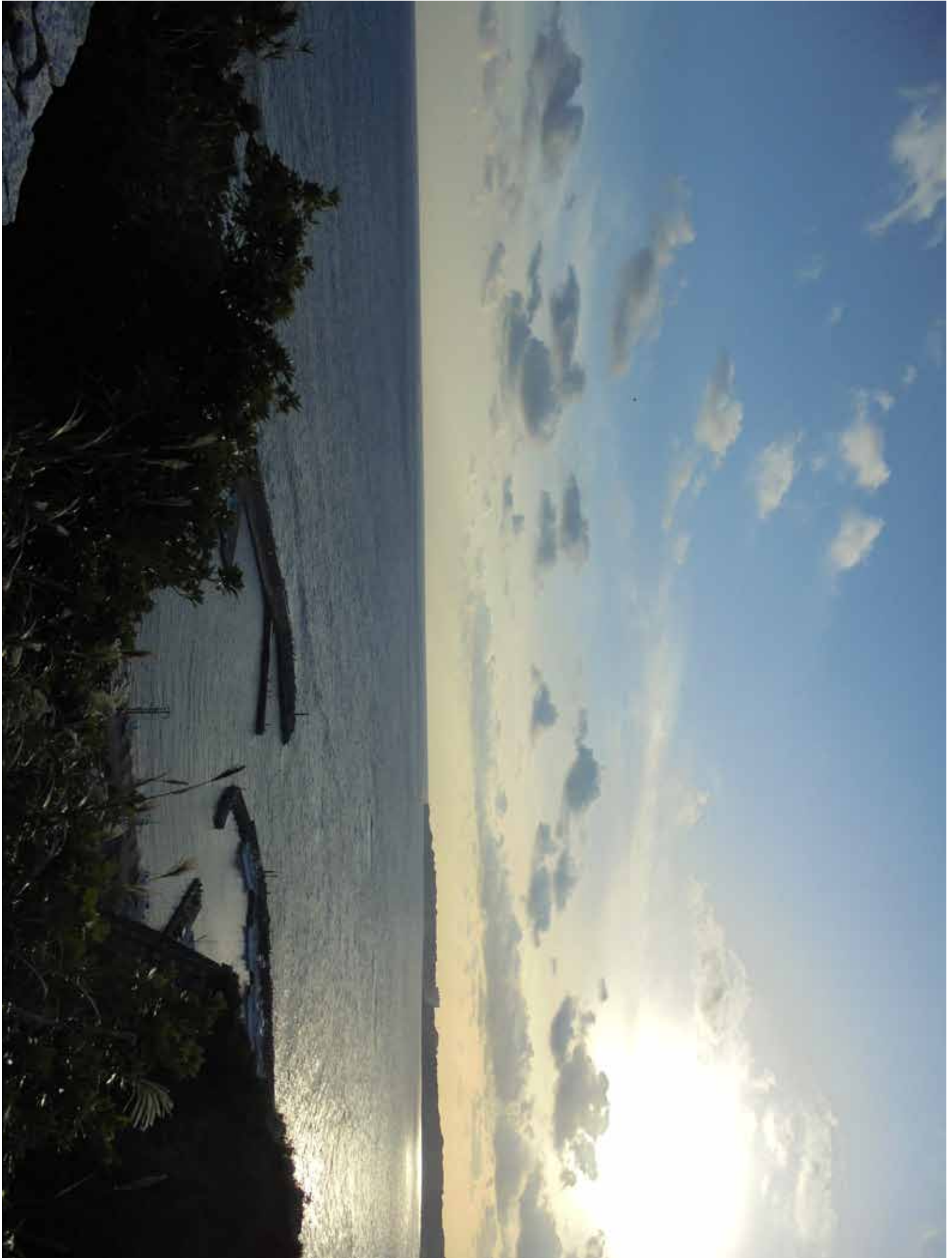


スペイン1600年ガシオン船1000トンサンフランシスコ号

一連の史実はすべてこの岩和田村民の心意気に発するものである。我等の祖先の美拳を後世に永く伝えるため、また永遠なる国際親交を祈念して、昭和三年十月一日森重組、浅野重雄等発起人となり、この日西墨交通発祥記念之碑が建立された。







# ボン・ロドリゴ上陸地

慶長14年（1609年）9月30日夜半、前フイリピン諸島長官ボン・ロドリゴ・デ・ヒベロ・イ・ベラスコー一行を乗せたサンフランシスコ号がメキシコのアカプルコ港への帰還途中、岩和田の田尻沖で遭難（乗組員373名）。事件を知った村民（旧岩和田村）は総出で駆けつけ、救助活動にあたった。

救助されたロドリゴ一行は、37日間を過ごした岩和田村に別れを告げ、大多喜城経由で江戸へと出発することになり、駿府では將軍徳川家康に謁見している。その後、家康はロドリゴたちの帰国のため、舟を作らせ、慶長15年6月13日に浦賀を出航し、その年の10月27日に、無事アカプルコに到着した。

環境省・千葉県

# ボン・ロドリゴ上陸地

慶長十四年(二六。九)九月三十日

前アイリピン諸島長官官ボン

ロドリゴが任期満ちてメキシコ

に帰ろうとルソンのマニラ港から

スベイン帆船サンフランシスコ号

でメキシコのノビスピのアカプルコ港

に向う途中暴風雨にあいこの海岸に

座礁した夜半三七名の乗組員が上陸し

た。岩和田村の人々はこれを識かく迎え

手厚く振舞し幕府の指示が

下るまでの三七日間当地の大宮寺

に滞在させた

昭和五十六年三月三十一日

英陽郡教育委員会

御宿町

# 聖

# 画

# 十画

日本ハリストス正教会須賀正教会所蔵  
昭和四十九年三月十九日指定

本教会（ロシア正教会）の聖堂内に掲げられた聖画（イコン）です。いずれも油絵で、「機密の晩餐」（最後の晩餐）「聖母子」ハリストス（キリスト）など十面の絵画で構成されています。この聖画は、この教会の聖堂が完成した明治三十二年（一八九九）に、神田駿河台のニコライ大主教から送られたもので、これを制作した山下りんは、ニコライ堂に所属した女流イコン画家です。

山下りんは、安政四年（一八五七）に

茨城の笠間に生まれ、明治九年に工部美術学校（現在の東京芸術大学）に入学し、浅井忠等と共にフアンタネージから本格的な洋画の指導を受けました。その後、主教の命により二十三歳で單身ロシアに渡り、ペテルブルクの女子修道院、エルミタージュなどでイコンの技法を学びました。

帰国後は、ニコライ女子神学校内の宿舎に寄宿し、イコンの制作に一生を捧げました。

本教会の聖画は、山下りんが四十二歳の頃の作品と考えられており、聖画制作においてきびしい制約から、かなり日本的な創意が試みられ、私たちにも親しみやすいものになっています。

平成六年二月二十三日

千葉県教育委員会  
八日市場市教育委員会





## 高銚島殉教者顕彰碑

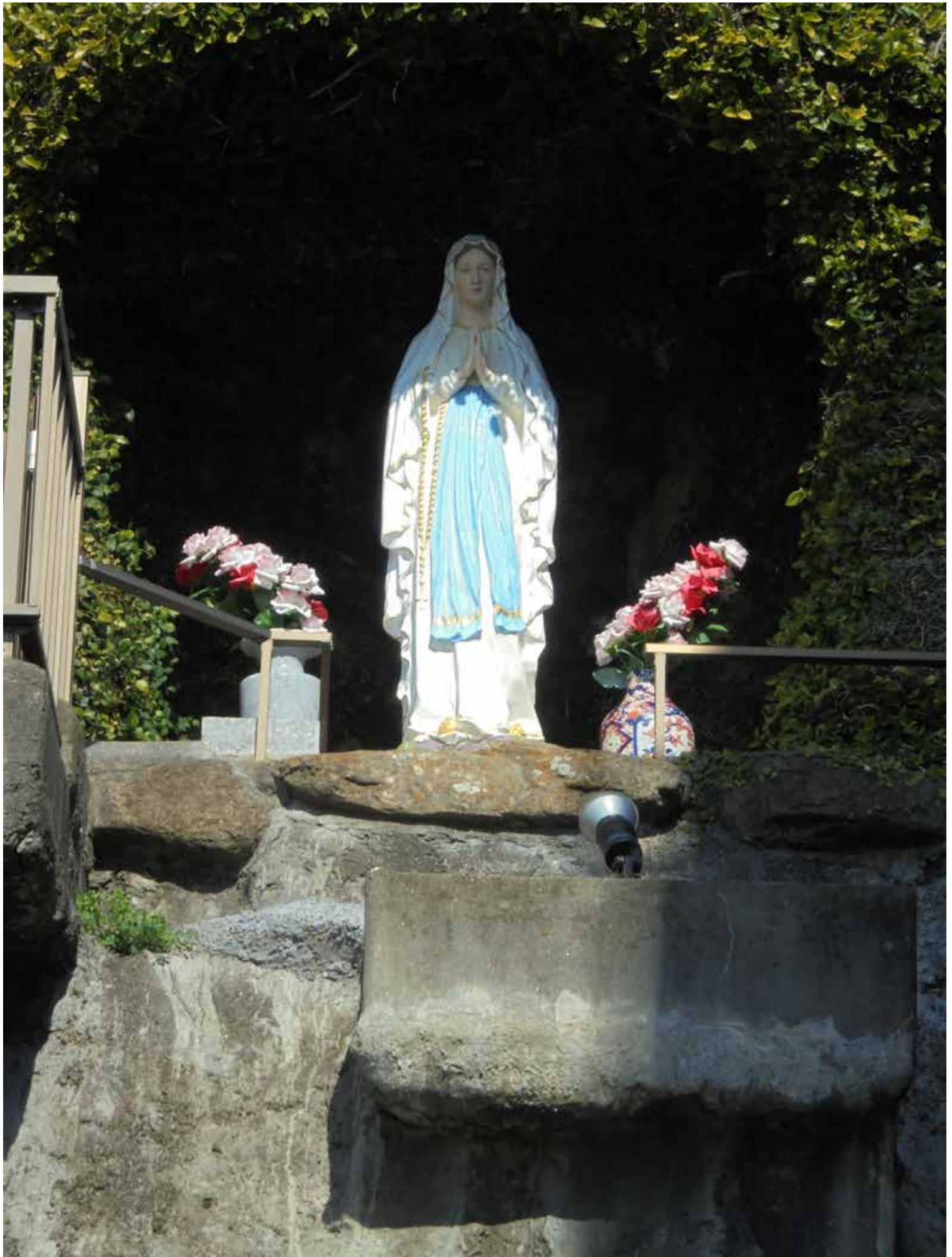
カスハル土田彦次郎とアブレノ吉田は神父を  
かくまっていたが捕らえられ、元和三年（一六一  
七）十月二日、高銚島で殉教し、慶応三年（一八  
六七）福者の位にあげられた。

## 福音宣教先駆者信仰の碑

神ノ島の西忠吉・政吉の兄弟は信徒発見後、出  
津、黒崎をはじめ、天草の大江、崎津方面にフ  
ナシヤノ神父を舟で案内し、かくれキリシタ  
の信仰復興に尽力した。

1000年十月二日 建立  
福音宣教 信徒発見







昭和二十四年聖フランシスコガビエル渡来  
百周年を記念し世界平和と航海安全を祈つ  
この地に建てられたマリヤ像は、米平の風雨  
傷み、再建のやむなきに至りました。幸い、多  
の方々に、昭徳昭生両水産会社の御支援  
により、国際文化都市長崎の港口を守る大マリ  
ヤ像を建てることになりました。ここに制作  
母マロニ一師と御協力下さいました。ここに制作  
の謝意を表し、神のおん母聖マリヤの特別な  
御守護を祈念いたします。

一九八四年六月十九日（マリヤ像着座の日）  
神ノ島教会信徒一同

記

祝別者 長崎大司教 里脇枢機卿  
制作者 マロニ一師（サブリナ会イタリヤ）  
マリヤ像の高さ 四米六十糎



国指定重要文化財 出津教会堂

平成二十三年十一月二十九日 指定

出津教会は、明治十二年に外海地区の司祭として赴任した、フランス人のマルコ・フリ・ド・ロ神父により設計・施工された教会です。

明治十四年、建築に着工され、翌十五年完成しました。この時の教会は、シノガ造りの壁面であり、内部は漆喰塗り、木造椽瓦葺き奇棟造り、内部は三廊式平天井でした。

明治二十四年、増築、祭壇部に塔を建て、屋根は祭壇部が切妻造り、玄関部は奇棟造りとなりま

す。明治四十二年、玄関部を拡張し、鐘塔を建ました。玄関部は、鉄骨造りで、周囲をシノガで囲み、白漆喰に仕上げられています。外部は、モルタル塗装、屋根は切妻になりました。内部は、六本この柱列が二列に並び、身廊部と左右の側廊とに分けて三廊式になっています。天井は、台風被害を少なくするために平天井としています。

教会の規模

全長三十七m、幅十一m、軒高三、五m、塔の高さ五、八m、祭壇部の塔の高さ五、五m

この教会は、明治初期の建造物であり、建造から二回の増築まで、ロ神父の設計施工によるものであるに大きな意義があり、各所に、ロ神父独特の手法が見られます。ト・ロ神父の偉業の一つであることなど文化財としての価値が高い教会です。

長崎市教育委員会

11  
171-1  
216

11

敬啟者

敬啟者

敬啟者

11

敬啟者

敬啟者

敬啟者

11

11  
25-2  
2

異家系諸信御之七  
改心證文

卯九月五日

庶付書第十三日

11  
25-2  
2

皇太子信御之口改心謹文

卯九月

應付書第十三日

異宗信條の改心文

卯九月

共七冊  
庶第12函  
付

五月二十一日

一 初正儀尚六月十日首用本年有之湯尚  
既經之途中浦上村之夜入於風雨  
強之身知人因村之里家野令之物方以若  
既在之同人之家業與異宗信作之申之申  
為同夜之在猶初在彼之口不書其獄同  
之在捕進之及之令能之不得之能之  
之在名之在捕之及之作所也知也之在仍之



日清河文房主人書

肥前國平左  
奉行口

享和二年九月廿

末藏一  
花藏一  
年作一

御奉行所

申年九月末藏印  
吉龍印  
申年九月末藏印  
吉龍印  
申年九月末藏印  
吉龍印

壬子年九月廿一日

# 御奉行所

本年以來就御所人波文可也出苦付甚甲部中後  
未就御所人十門外不拂意一平天中波後也至能是  
物之已也

末藏  
花藏  
年作

高市一札之事

一 和儀四年中一高宗信作の中一は其

己年同又月中一高宗信作の中一は其

和來右字之法信作の中一は其

尚六月中浦上村高宗信作の中一は其

一高宗信作の中一は其

高宗信作の中一は其

高宗信作の中一は其



我洞中為上中何口清源文為上中一  
此件

高家仙岩山成宮集  
肥田國信林款浦上村山

此長字道上

一 撰撰極好書卷公不德寺



市之部一  
加字

右一通祈相遠之口社公以上

光緒二十九年九月四日

佛奉祈所

前書一類初經出寺承知人等上

右

市之部一

浦上村山雲

庄名

高野寺守部代

里名

山名

德之部



改心釋文之事

一 初、後、宗、授、學、也、可、也、宗、果、宗、信、作、  
以、中、一、と、海、を、清、世、と、し、魂、魄、を、助、り、と、又、祖、  
其、より、耦、中、傳、り、成、り、心、性、を、為、深、き、分、別、  
云、く、我、れ、く、唱、事、以、中、一、清、世、く、福、徳、を、  
新、念、再、立、と、し、右、と、考、へ、  
所、制、禁、く、宗、門、之、教、今、般、以、利、解、と、し、一、回、  
初、之、發、明、以、中、一、是、近、心、得、遠、信、作、以、中、一

改心證文之事

一 初正徹宗授學おあ可中なる果宗信作  
以中一得も活世に魂魄在助りは文祖  
其より耦中傳成も心成る活き分別  
吾一我私一唱事以中活世一福德を  
祈念所在も右も亦  
所制禁く宗門に改心般以利解の上同  
初の發明以中一是正心得遠信作以中

履重無事息入公隨右宗門仍來急夜  
此止前之決定是重公宗於學古有丁中尤  
宗會之師之語之名之上書記寺清判  
可重中之教之上之不善也後之嚴科  
之丁中作分公仍改心從文重丁中以作

言身仍在舊國成官集  
肥田國故村取浦上村守

古名也

字 丁中本